

東部地区遺跡詳細分布調査報告書

～国営加茂東部地区総合農地開発事業周辺地域～

1987

新潟県加茂市教育委員会

はじめに

昭和60、61年度の2ヵ年間にわたって進めてまいりました加茂東部地区遺跡詳細分布調査が予定どおり終わり、このほどその報告書をまとめることができました。加茂東部地区国営総合農地開発事業に備えて、あらかじめ地域内の遺跡分布状況を把握しておくのがこの調査の目的ですが、1,044haに及ぶ広範な地域であるだけに、現地調査や資料整理などで、従事者延べ560人余、調査日数約70日間を数えています。すでに周知されている遺物包含地をはじめ、城館址、石塔、寺院址、塚などを約130地点で調査、はるか原始のころから中世・近代へと幅の広い時代区分となっており、七谷地域における遺跡の分布図はさらに厚味を加えたことになります。東部地区開発事業は郷土の生いたちを探る好機でもあり、学術的にも貴重な数多くの資料を得ることができました。

雨天や猛暑の中、調査にあたられた諸先生方をはじめ、聞き取り調査での情報提供や現地の案内などいろいろご協力をいただきました地元の皆様方に厚く御礼申し上げ、発刊のごあいさつといたします。

昭和62年3月

加茂市教育委員会教育長

小林知二

例　　言

1. 本書は新潟県加茂市内における、加茂東部地区国営総合農地開発事業の計画に伴う遺跡及び石造物等の詳細分布調査の報告書である。
2. 当開発が、農地、山林を含む 1,044haに及び、且つその法線の把握が難しいため、当調査においてはその開発予定地域周辺を含めて調査範囲とした。
3. 調査は加茂市教育委員会が、東部開発地域内道路詳細分布調査団を結成して実施した。
4. 調査は昭和59年度の準備企画に始まり、60年度には西山、宮寄上、及び高柳地区の調査を行い、61年度には大谷、土倉、長谷及び黒水地区の調査を行った。
5. 調査は周知の遺跡（既存の道路）の再確認をはじめ、遺物包含地、山城、館跡、要塞、塚、中世石造物、近世石造物を範略とした。
6. 調査に当たっては調査団員が三班を編成し、担当の地域を同時に踏査し、その結果を持ち寄った。
7. 本書の記載について、道路等の位置図は特に記入のないものは5000分の1である。また、説明事項は、
① 加茂市における既存の道路
② 遺跡の種類
③ 遺跡所在地
④ 遺跡の立地
⑤ 遺跡の規模・範囲
⑥ 或いは遺構
⑦ 出土遺物または石造物等の形態
⑧ 遺跡・遺物等の時代
⑨ 所有者または保管場所
⑩ 参考文献
⑪ 備考、である。本文ではスベースの関係上これらを省略した。
8. 1 の脇のない遺跡は当分布調査によって発見、または取り上げられたものである。
9. 石造物等の計測は、〈高さ〉×〈幅〉×〈厚さ〉の順であり、欠損または土中に深いものは数値を括弧内に入れた。
10. 本書の編集に当たり山城関係のうち薊野山城址に関しては県教育委員会の原図を基にしたが、その他は不備な点もあるが總て調査員の原図によるものである。
11. 遺物整理、図面作製、編集作業は調査員の援助のもとで杉本恵子、佐藤正子が当たった。
12. 本書作製の他、埋蔵文化財包蔵地調査カードを作製し、60年度調査結果についてはすでに提出済みである。
13. 本書では予算の都合上挿図及び図版説明等を省略した。
14. 本書の執筆はⅠを小柳陽一、Ⅱを長谷川昭一、Ⅲ及びⅣを川上貞雄が担当した。

調査団名簿

団長	小林 知二	加茂市教育委員会教育長
担当者	川上 貞雄	日本考古学协会会员
調査員	木村 宗文	元県文化財保護指導員
	松井 寛	"
	古川 信三	加茂市文化財調査審議会委員
	長谷川昭一	"
調査員補	鈴木 弥生	加茂曉星高校講師
	宇之津昌則	新潟大学考古学専攻卒
	金井 勇	越後考古研究会会員
	中川 俊男	"
調査協力	波塚 十一	郷土史研究家
	片岡 典雄	三条商業高校教諭
	平野 智子	川瀬ひさ子 五十嵐真由美
	渡辺 朝子	樋口真由美 岸本 佳子
	杉山くみ子	高橋 征子 藤田 美子
	青野 知恵	西村 和子 石綿 敦子
	鷹倉 知子	坂下ともみ 青木佐代子
	安達 朝子	金子 才子 益田 一子
	小柳かおる	長沢 恵美 中村 忠
	吉田 直美	五十嵐朋子 今井美佐子
	上田加奈子	菊池 知子 志賀さおり
	永井 雅子	青山 洋子 古川 有理
	今井 和代	大竹 美雪 田巻規江子
	外山 幸子	高橋 敏資 古保 貴史
		(以上三条商業高校生徒)
	若杉 俊章	考古学愛好者
	井浦美由紀	"
地元協力者	大橋 三郎	外山 登 菅家与三郎
	小柳 一男	林 武雄 中野善一郎
	高橋 貞二	外山 敏夫 小柳一次郎
	田浦 富雄	今井 敏夫 田浦 信樹
	鶴巣 武雄	波塚 憲 大橋龜太郎
	龜山 知章	坂上 清一 茂岡勇太郎
	菅家 留吉	珊瑚庄次郎 伊藤 景昭
	鶴巣 健吉	中野 文平
事務局	小柳 陽一	加茂市教育委員会社会教育課長
	中沢 雄	同副参事
	前田 玲子	同主査
	青柳 芳樹	同主事
	斎藤 淳	"

目 次

I 調査に至る経緯	3
II 調査地域の自然的環境と歴史的環境	4
III 東部開発地域周辺の遺跡・遺物	7
IV 小 結	108

I 調査に至る経緯

加茂市街地から加茂川沿いに遡って約6kmの地点に狭口地区がある。その名のとおり両側から山が迫り、わずかに加茂川と県道のみが通る、地形が狭まったところである。

狭口を過ぎると視野は一挙に抜がり栗ヶ岳を中心とした七谷地区的山脈が展開する。旧中蒲原郡七谷村で、七つの谷あいに集落が散在している。県道の行きつく所は栗ヶ岳(1,293m)であり、村松町や下田村方面へ通ずる道路はあるが、四方を山岳に囲まれた地理的条件からして幾多の文化的遺産が分布し、継承されてきた。

栗ヶ岳山麓にある水源地ダム建設工事では縄文土器や石器類が出土しているし、昭和60年度に発掘した黒水地内国道290号線の工事では縄文後期の遺構や石器、土器類も確認されている。

中世のころの城館跡も七谷地域に散在し、それにまつわる伝承も數多くあって興味をそそる。まさに、歴史のロマンが数多く秘められている地域であると言っても過言ではない。

同地域の面積は 80.68km²。昭和29年11月、加茂市と合併時に 4,700人余を数えていた人口はその後漸減を続け、3,300人余に落ち込んでいる。かつて盛んであった林産、薪炭、製紙、農業は時代の変遷とともに衰退し、若年層の流出や地域外への就労者が増加した。

山岳地帯であるだけに、農家1戸当たりの経営耕地面積は 0.7haで、加茂市須田地区の1.6ha、下条地区の1.5haなどと比較して地域差は大きく、農業所得の低さは当然否めない。

効率のよい農業経営を目ざし、地域の活性化に結びつけるために浮上してきたのが東部開発事業である。計画面積は 1,044ha（農地開発 715ha、土地改良 329ha）で、地域内を結ぶ環状路線の整備や、総貯水量 290万tの農業用水ダムを建設する大規模なプロジェクトで、宮寄上、上高柳、上大谷などの奥地山岳地帯を除く七谷地区のほとんどに開発計画のアミがかぶせられた。市内では有数の埋蔵文化財包含地である七谷地域であり、開発事業着手の前に遺跡の分布状況調査に取組んだ。

調査にあたっては県文化行政課から數々のご指導をいただきとともに、東部開発事業の主管課である市農林課と事前協議を十分に行いながら計画を検討した。

なお、2年間の調査に要した事業費は 418万円で、このうち 238万円が国県補助で充当されている。2年間にわたった調査の努力が実って、七谷地域の史実がいっそう明確化されたことは喜ばしい限りである。

II 調査地域の自然環境と歴史的環境

(1) 自然環境

加茂東部地域は、新潟県のはば中央に位置する加茂市の東南部にあって、信濃川水系加茂川の上流流域に発達した山間の集落で、七谷地区（旧中蒲原郡七谷村）に属す。周辺は中蒲原郡村松町、南蒲原郡下田村、加茂市の下条と狭口地区に接し、市街地から地区の中心部下高柳集落まで約10kmの距離にある。面積は約81km²で加茂市全体の約61%を占めるが、その約84%は山林で耕地は約5%にすぎない。

地区的南から東にかけては、古世層の岩石を基盤とした栗ヶ岳、椎ノ神岳、白山など千メートル級の山々が屏風のようにそびえ、それから北西部に向って新三紀に形成された50~400mの丘陵地帯がしだいに標高を下げながら広がる。丘陵地帯の地層はほぼ10~40度傾斜の單斜構造を示し、世界的に知られている七谷層の灰色泥岩・土倉火山角礫岩及び西山層泥岩の分布地帯である。栗ヶ岳(1,293m)に源を発し地区を南東から北西に貫流する加茂川とその支流が谷をつくり、それに沿って13の集落と耕地が散在する。加茂川本流と高柳川流域は河川の氾濫によって形成された礎層を中心とし、大谷川、西山川の流域および土倉地区は粘土系の地質である。

気象的には、年平均気温12℃、年間降雨量2400mmだが、周囲が山に囲まれているため“風知らず”と言われるほど風が少なく、特に夏は高温多湿である。冬期の積雪は加茂市内では群を抜いて多く、最高積雪が3m近くなることもめずらしくない。11月に初雪を見、4月上旬までの四ヶ月間は雪中の生活を強いられる。

(2) 歴史的環境

七谷地域における縄文時代の遺跡の存在は戦前から確認されていた。大正7年発刊の「中蒲原郡誌」に宮寄上字興野、下高柳字川向、上高柳字金平、黒木字岩野の4箇所が記されている。戦後、新たに発見された道路や遺物については、加茂市が昭和50年に発行した「加茂市史」で詳細に報告されている。このうち発掘がされたのは、昭和30年の水源池遺跡と昭和60年の七谷忠魂碑遺跡の2箇所のみである。いずれも建設工事にともなう一部分の発掘で、遺跡の全容を知ることができず残念である。水源池遺跡からは土器やイロリ跡が出土し、復元された3個の土器は市の民俗資料館に展示されている。本格的な発掘調査が行われた七谷忠魂碑遺跡は縄文中期の配石遺構などで、調査報告書が加茂市教育委員会より発刊されている。このほか、タカラ（熔鉢炉）か鍛冶場などの遺跡でないかとされる“カナクソ”的出土、ランガマと呼ぶ横穴や中世の山城の跡、古墳らしき塚などの遺跡が前記「中蒲原郡史」に記述されている。昭和54年に新潟県教育委員会がまとめた新潟県遺跡地図によれば七谷に23の遺跡がある。

このように七谷の地域に古くから人々が生活をしたことは確かであるが、現在の集落の開発年代は明らかでない。宮寄上の長瀬神社が『延喜式』神明帳に記す長瀬神社との説もあるが、同市八幡の長瀬神社との関連で判断としない。その後七谷の集落は菅名荘と青海荘の莊域に含まれていたが、その境界は明確にできない。なお、大正時代からこの地が紙屋荘であったといわれていたが、その後の研究によって紙屋荘は三島郡越路町付近の莊園であったことが明らかにされている。南北朝時に越後の南軍と北軍が菅名荘（村松）金津保（新津）あるいは加茂市陣ヶ峰などで戦ったことが「越佐史料」に見える。この頃、新田義宗が宗良親王を奉じて各地を転戦したが、岳山城や高柳城が新田氏ゆかりの城という伝説がある。

慶長3年(1598)豈臣秀吉は上杉景勝を会津に移した。七谷郷はこの時から寛永16年(1639)まで村上藩の領地となり、「七谷組」と呼ばれて一つの行政単位をなしていた。ただし、下土倉村のみは「菅名組」に組込まれて、村上藩の重臣堀主膳の知行地であったことが「堀家文書」で明らかである。慶長5年(1600)関ヶ原合戦の前哨戦ともいいくらい越後一揆が起り戦いは加茂七谷方面に広がった。寛永16年安田藩3万石が創立され七谷はその所領となり、正保元年(1644)領主が村松に移って村松藩と改称され、それ以降幕末まで村松藩領で下土倉を除いて七谷組として黒水村にあった大庄屋の支配下にあった。この間、寛文10年(1670)から2年間縦換地が実施された結果、大谷村が上・中・下の3ヶ村に、高柳村が上・下の2ヶ村に分離されて、現在の大字に対応する村の構成が成立した。明治維新に下土倉村が七谷の行政区域に加わり、明治22年(1889)中蒲原郡七谷村となり、昭和29年11月に加茂市に併合されて現在に至る。

江戸時代以前に起源をもつとされ、かつては県下最大の生産量を誇り七谷の主要産業であった和紙の生産は、現在1戸が細々と伝統を守っている。宮寄上地区の鉛鉱山は江戸時代中期の開鉱で佐渡金山の精錬にも使用されるなど幕末期に活況を呈したが、明治初期に廃鉱となつた。



○	原始時代	▲	塚類	●	近世の石造物
△	古代 中世	★	中世の石造物		
■	城館跡	□	その他の遺跡、史跡		

III 東部開発地域周辺の遺跡・遺物

目 次

1. 山王原道路	34. 御所平道路	67. 広田の塚	99. 日吉神社の石塔群
2. 下土倉道路	35. たて屋敷道路	68. 上の田の板碑A	100. 牛軛坂の石塔群
3. 岩野原A道路	36. 岩野古銭出土地	69. 上の田の板碑B	101. 太古原の石塔群
4. 岩野原B道路	37. 岳山城址	70. 中丸の板碑	102. 乃木神社の祠
5. 岩野新田A道路	38. 薬師山城址	71. 善興寺の石造物	103. 寺屋敷の石塔群
6. 弥次郎遺跡	39. 石高山城址	72. 段の坂の石造物	104. 沢通りの石塔群
7. 岩野新田B道路	40. 石山城址	(新田義宗一族の墓)	105. 嶽山寺の石塔群
8. 岩野道路	41. 出上塁柵	73. 小乙鉢山	106. 嶽山寺の庚申塔
9. 牛ヶ沢A道路	42. 本戸口塁柵	74. 爪切り不動尊	107. 善興寺の石塔
10. 牛ヶ沢B道路	43. 高柳城址	75. 小乙の宝鏡印塔	108. 西山の庚申塔
11. 水源池道路	44. 下大谷城址	76. 広田の石塔群	109. 賢聖寺門前の石塔群
12. 松ヶ沢道路	45. 上土倉城址	77. 宝興寺の石塔群	110. 賢聖寺門前の石造物
13. 金平道路	46. 西山城址	78. 薬師堂の宝鏡印塔	111. 谷泉寺の石塔群
14. 広田A道路	47. 西ヶ峯城址	79. 旧墓地の石塔残欠	112. 萩ヶ岳神社の石塔残欠
15. 広田B道路	48. 西ヶ峯塁柵	80. 管の谷地供養塔	113. 目隈地蔵尊
16. 七谷忠魂碑道路	49. 西ヶ峯皆堤	81. 三柱神社供養塔	114. 七聖の石塔群
17. 三場A道路	50. 陣馬跡	82. 三柱神社石塔群	115. 丸山の庚申塔
18. 三場B道路	51. 伝下屋敷館跡	83. 岩野原の庚申塚	116. 茂野家の山の神祠
19. 三場C道路	52. 七聖1号塚	84. 草生津の石塔群	117. トリアゲの地蔵尊
20. 岩野原C道路	53. 七聖2号塚	85. 草生津の寒念仏	118. 丸山の塚
21. 田中屋敷道路	54. 七聖3号塚	86. あさどおりの地蔵尊	119. ナメ坂の塚
22. 紋口田道路	55. 七聖4号塚	87. 出土の地蔵尊	120. 中大谷の石祠
23. 刈干場道路	56. 七聖5号塚	88. 金草様	121. 旧街道と花立峰
24. 川生津道路	57. 芹沢の塚	89. 鳥越の不動尊	122. 十二神社の石塔群
25. 岩野原D道路	58. 灰 塚	90. 鳥越の地蔵尊	123. 道祖神
26. 上黒水道路	59. 上黒水1号塚	91. 十二様	124. 旧宝生院の石塔
27. 川向道路	60. 上黒水2号塚	92. 田中の地蔵尊	125. 宝生院跡
28. 諏訪神社前道路	61. 谷地田の塚	93. 稲荷神社の石造物	126. 木櫛寺の石塔
29. 賢聖寺跡	62. 寺下の塚群	94. 上大谷の石塔群	127. 二左衛門山の墓址群
30. 寺屋敷跡	63. 管ノ谷地の塚	95. 金平の石仏	128. 上道の石塔群
31. 善興寺跡	64. 笠置の塚	96. 湯殿山碑	129. 朴坂の庚申塔
32. なかん沢道路	65. かご掛松の塚	97. 明毛の庚申塔	130. 六部塚
33. 石五郎屋敷道路	66. 行 塚	98. 御前清水の石造物	131. その他の遺物

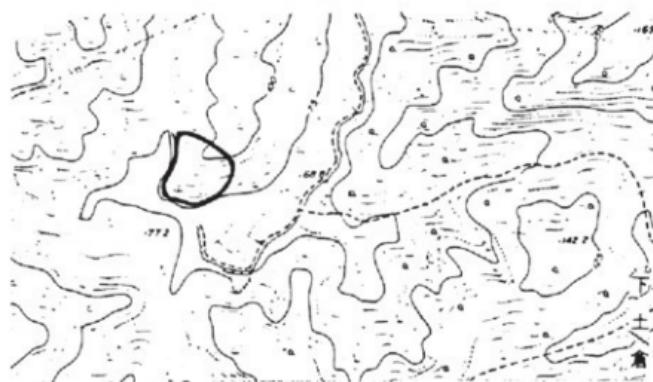
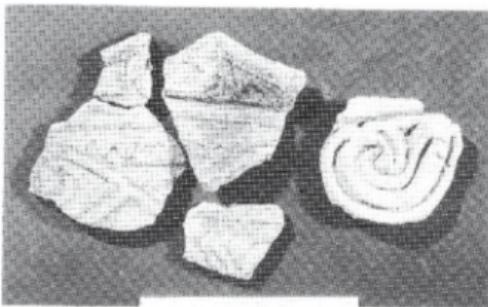
1 山王原遺跡

- 2 遺物包含地
- 3 下高柳字山王原 420~425
- 4 加茂川右岸の南西向き台地上。
現況は畠地で背後は丘陵斜面、
前面は低地の水田である。
- 5 約50×50m
- 6 ナイフ型石器
- 7 先土器時代
- 8 高橋貞二氏所蔵
- 10 昭和59年地主笠原浩二氏が採
集したもの。



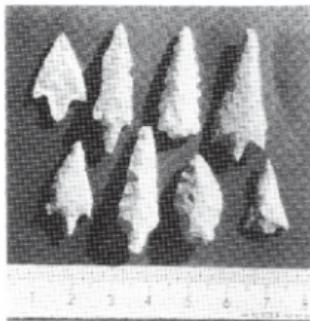
2 下土倉遺跡

- 1 No.1
- 2 遺物包含地
- 3 下土倉字中の倉628 他
- 4 村松町に近い山麓の台地。深い沢の奥部に張り出した平坦地で現況は山林である。
- 5 60×70m
- 6 縄文土器
- 7 縄文時代前期～中期
- 8 加茂市教育委員会
- 9 「加茂市史（上）」
- 10 村松町渡辺渡氏の所有地。伊藤景昭氏によって発見された。別名かまの口遺跡。



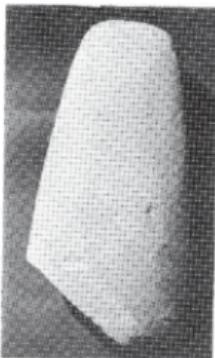
3 岩野原A遺跡

- 1 №.9
- 2 遺物包含地
- 3 黒水字岩野原 275-1~296
- 4 薬師山西方に広がる広大な台地の一画。現況は畠地。
- 5 縄文土器、石器（石鏃）
- 6 縄文時代中期
- 7 加茂市教育委員会
- 8 「加茂市史（上）」
- 9 桜井丈作氏の畠を中心とする地点



4 岩野原B遺跡

- 1 №.10
- 2 遺物包含地
- 3 黒水字岩野原 361-1~361-130
- 4 薬師山西方の山麓台地で加茂川右岸段丘上に当たる畠地。
- 5 縄文土器、石器（磨製石斧）
- 6 縄文時代中期
- 7 加茂市教育委員会
- 8 「加茂市史（上）」



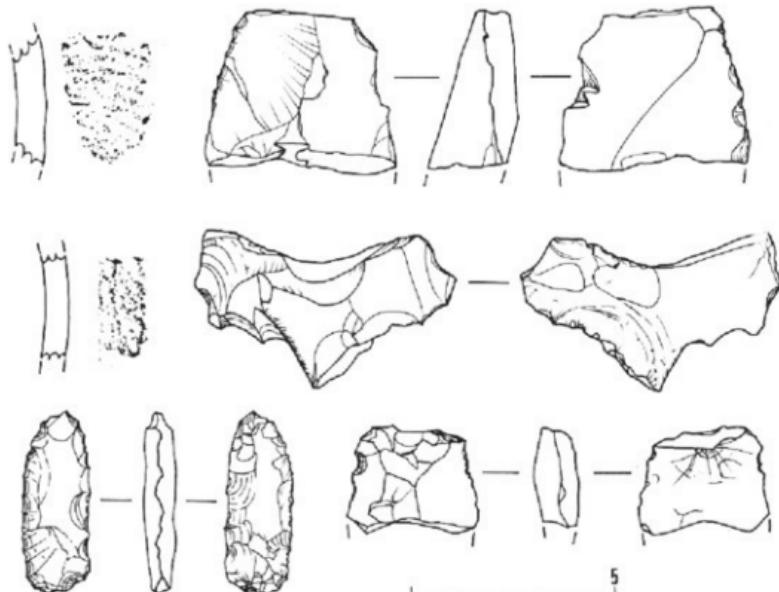
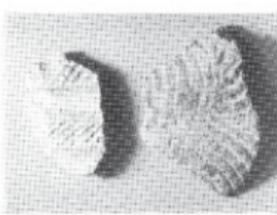
5 岩野新田A遺跡

- 2 遺物包含地
- 3 宮寄上字長瀬1157-1, 6, 14, 15,
1091, 1093-1, 2
- 4 山麓台地上。細。
- 5 東西90m、南北40m
- 6 縄文土器、石器（不定形スク
レイバー、刮片）
- 7 縄文時代中期～後期
- 8 加茂市民俗資料館



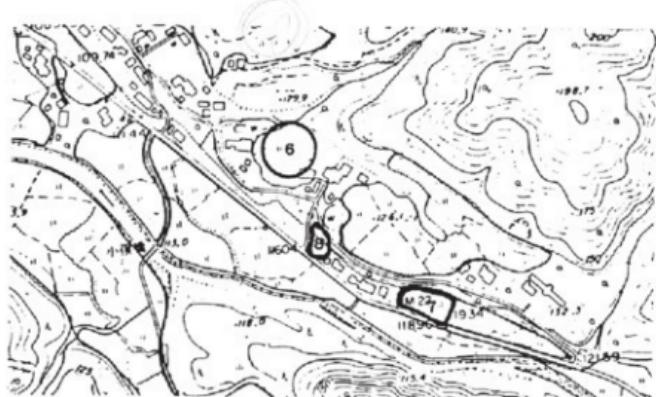
6 弥次郎遺跡

- | | |
|----------------------------------|------------------------------|
| 1 風呂 | 8 純文時代中期～後期 |
| 2 遺物包含地 | 9 「加茂市史（上）」 |
| 3 宮寄上字長瀬1095 | 10 別名“勇次郎遺跡”。位置図
は次ページ参照。 |
| 4 加茂川右岸の河岸段丘上。畑。 | |
| 5 東西10m、南北20m程 | |
| 6 純文土器、石器（石器、スク
レイパー、くほみ石、剥片） | |



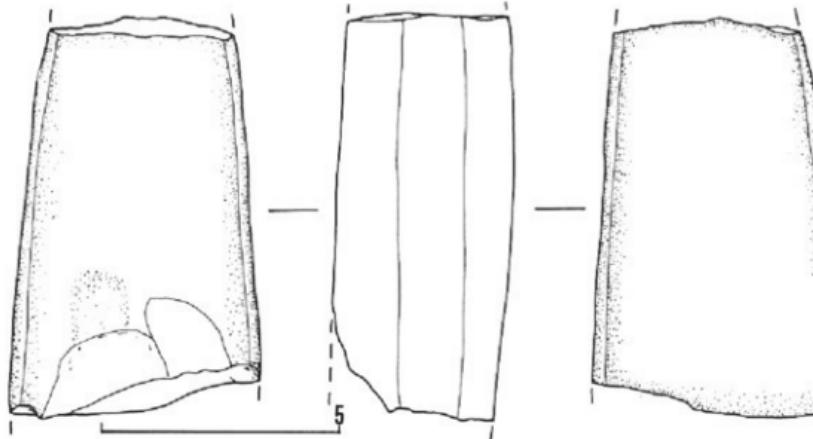
7 岩野新田B遺跡

- 2 遺物包含地
- 3 宮寄上字長瀬1157-1, 6, 14, 15,
1091, 1093-1, 2
- 4 加茂川右岸の河岸段丘上。標。
- 5 南北30m、東西50m程
- 6 織文土器
- 7 織文時代
- 8 加茂市民俗資料館



8 岩野遺跡

- 2 遺物包含地
- 3 宮寄上字岩野1122、1123-2
1093
- 4 加茂川右岸の河岸台地。畑及
び宅地。
- 5 畑地は20×30m程である。
- 6 石器（磨製石斧）
- 7 縄文時代
- 8 加茂市民俗資料館
- 9 位置図は前ページ参照。



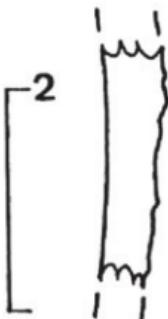
9 牛ヶ沢遺跡

- 1 No.2
- 2 遺物包含地
- 3 宮寄上字牛ヶ沢1894～1898
- 4 加茂川左岸の山麓台地上。畑。
- 5 縄文土器
- 6 純文時代
- 7 「加茂市史（上）」
- 10 戦後の山村開墾時点で土器を検出したというが、その所在が明らかでない。



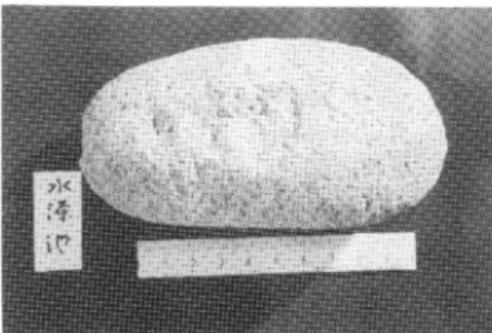
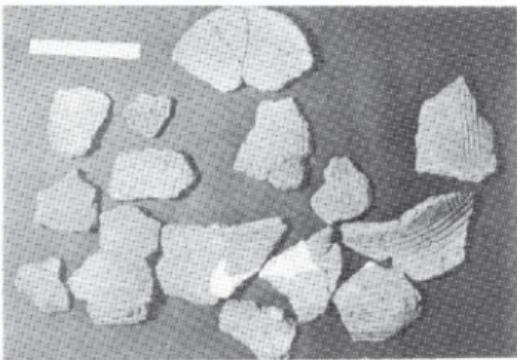
10 牛ヶ沢B遺跡

- 2 遺物包含地
- 3 宮寄上字広田1999-2、2568～
2569
- 4 山麓台地の畑。
- 5 60m四方程と推定される。
- 6 縄文土器、剥片（フレーク）
- 7 縄文時代
- 8 加茂市民俗資料館



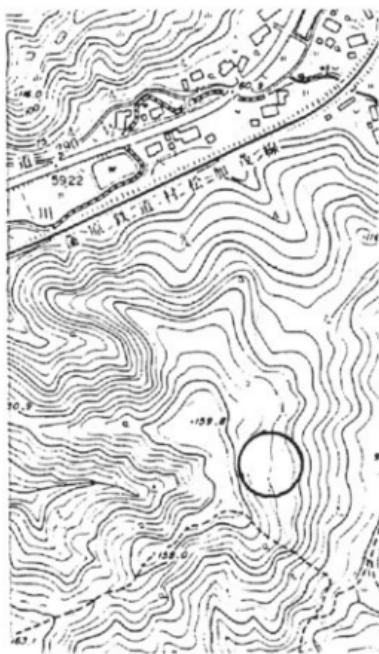
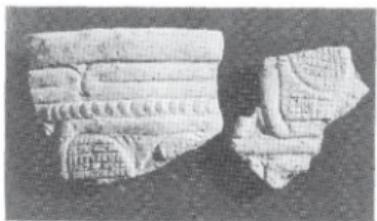
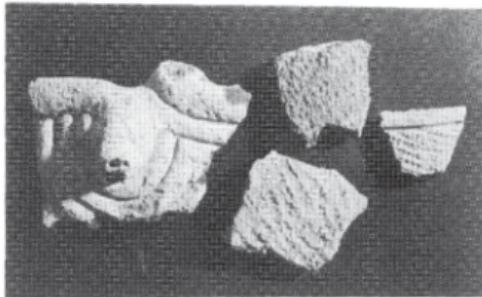
11 水源池遺跡

- 1 № 2
- 2 集落址
- 3 宮寄上字長瀬（田の畔）
- 4 山麓、河岸段丘。現況は大部分がダムの湖底となった。
- 5 範囲は 100× 300m 程
- 6 繩文土器、石器（石斧、くぼみ石、石棒）、石組炉址
- 7 繩文時代中期
- 8 加茂市教育委員会
- 9 「加茂市史（上）」
「ふるさと歴史散歩」
「加茂市の文化財」
- 10 昭和30年 8月上水道水源としての貯水ダム建設中に発見し、一部が立会い記録された。



12 松ヶ沢遺跡

- 1 No.5
- 2 遺物包含地
- 3 長谷字鼻ノ下25-1
- 4 薬師山北側の山麓に近い緩斜面の台地。
- 5 縄文土器
- 7 縄文時代中期
- 8 加茂市教育委員会
- 9 「加茂市史（上）」
- 10 玉本金次郎氏が畑の耕作中に発見した。



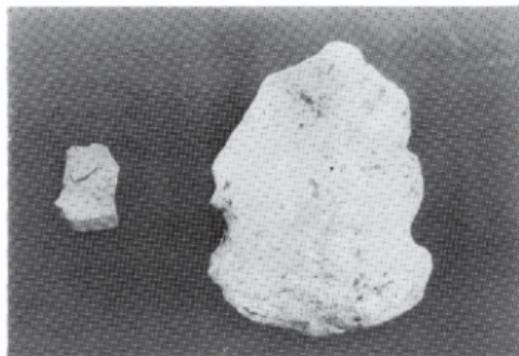
13 金平遺跡

- 1 №.4
- 2 遺物包含地
- 3 上高柳字金平64 他
- 4 山麓末端の南向台地上の畑、水田、及び一部山林に広がると推定される。高柳川右岸の河岸段丘。
- 5 90m四方
- 6 繩文土器、石器（礫石斧、礫器、石皿、他）
- 7 繩文時代中期
- 8 加茂市民俗資料館
- 9 「加茂市史（上）」



14 広田A遺跡

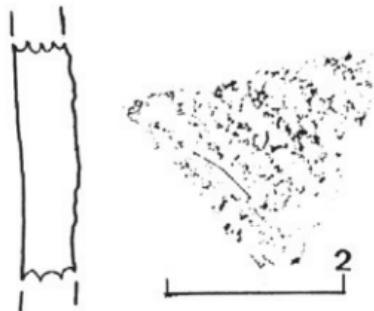
- 2 遺物包含地
- 3 宮寄上字広田2368~2399、
2558~2563
- 4 山麓の北東向き舌状台地。
- 5 40×60m
- 6 フレーク
- 7 縄文時代
- 8 加茂市民俗資料館



15 広田B遺跡

2 遺物包含地

- 3 宮寄上字広田2753~2757
- 4 加茂川左岸の河岸段丘。北向
きの台地畑。
- 5 60m四方程と考えられる。
- 6 純文土器
- 7 純文時代
- 8 加茂市民俗資料館
- 10 広田A遺跡とはかけはなれた
位置にある。

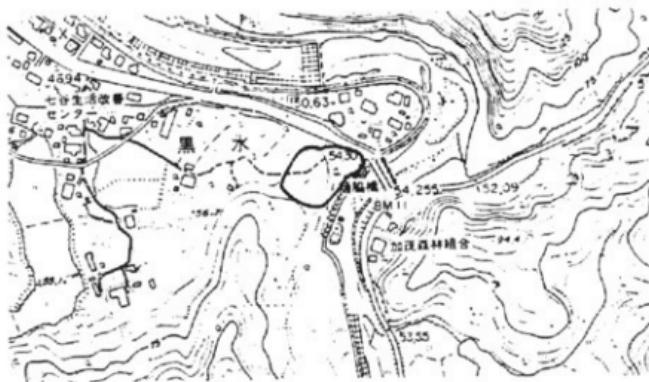
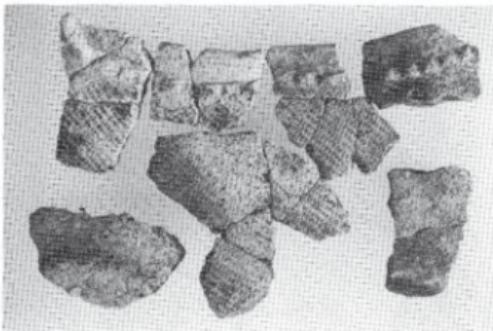


2



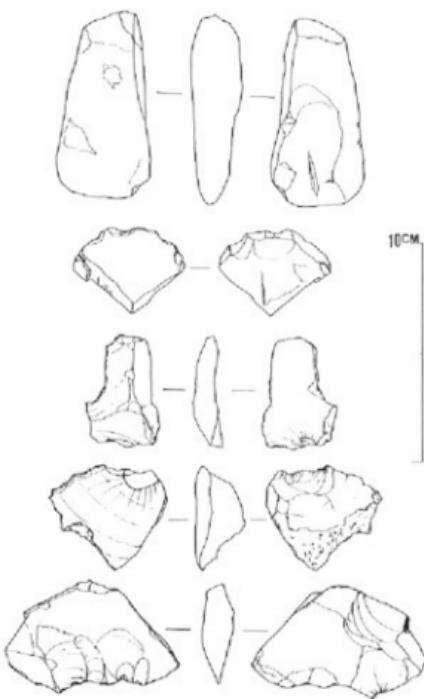
16 七谷忠魂碑遺跡

- 1 No. 1
- 2 祭祀道路 他
- 3 黒水字丸山756-1 他
- 4 加茂川左岸の河岸段丘上。公園及び畑地。
- 5 70×100m 配石土塙、集石道構 他
- 6 縄文土器、石器（石鏃、石斧、環状石斧、石籠、礎器、くぼみ石、面取石、他）
- 7 縄文時代中期～後期
- 8 加茂市教育委員会 波塚健太郎氏
- 9 「七谷忠魂碑遺跡」
「加茂市史（上）」
- 10 昭和60年、国道改良工事に伴い一部の緊急発掘調査がおこなわれた。



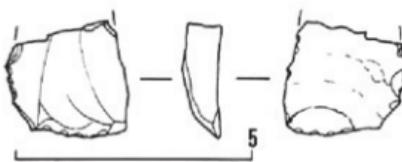
17 三場A遺跡

- 2 遺物包含地
- 3 宮寄上字三場 188~191-子、174、175-1、67-3、及び南側隣接地
- 4 加茂川右岸の段丘上。南向きの畑、水田。
- 5 約90m四方
- 6 石器（錐石斧、不定形スクレイバー、フレーク）
- 7 繩文時代
- 8 加茂市民俗資料館



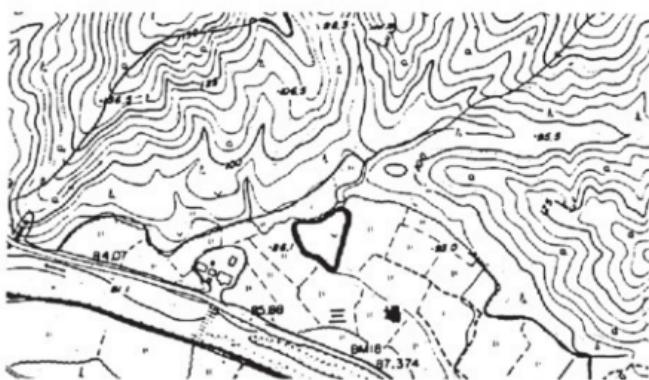
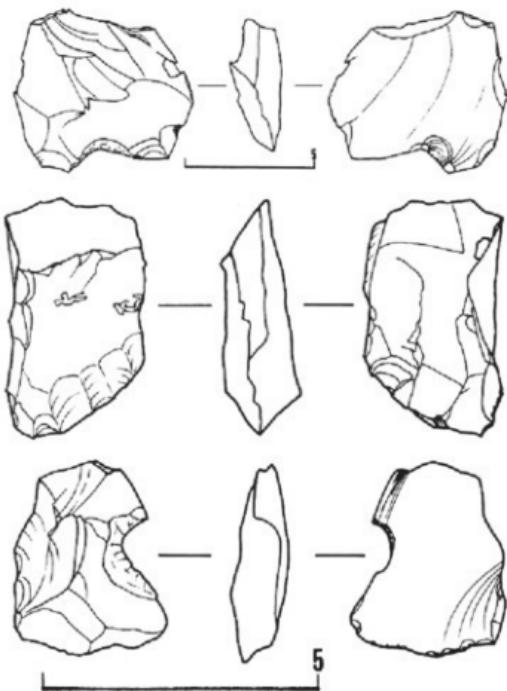
18 三場B遺跡

- 遺物包含地
 - 宮寄上字三場71、72、2535～2539
 - 山麓台地、南向きの緩斜面。
現況は畠、山林。
 - 20×70m程と推定される。
 - 石器（スクレイパー、フレーク）
 - 縄文時代
 - 加茂市民俗資料館



19 三場C遺跡

- 2 遺物包含地
- 3 宮寄上字三場70、90、91-1
- 4 加茂川右岸の河岸台地。南西に張り出した南向きの緩斜面の畑地。
- 5 50×50m程と思われるが、な
おも東側に広がる可能性あり。
- 6 石器（スクレイパー、フレー
ク）
- 7 繩文時代
- 8 加市民俗資料館

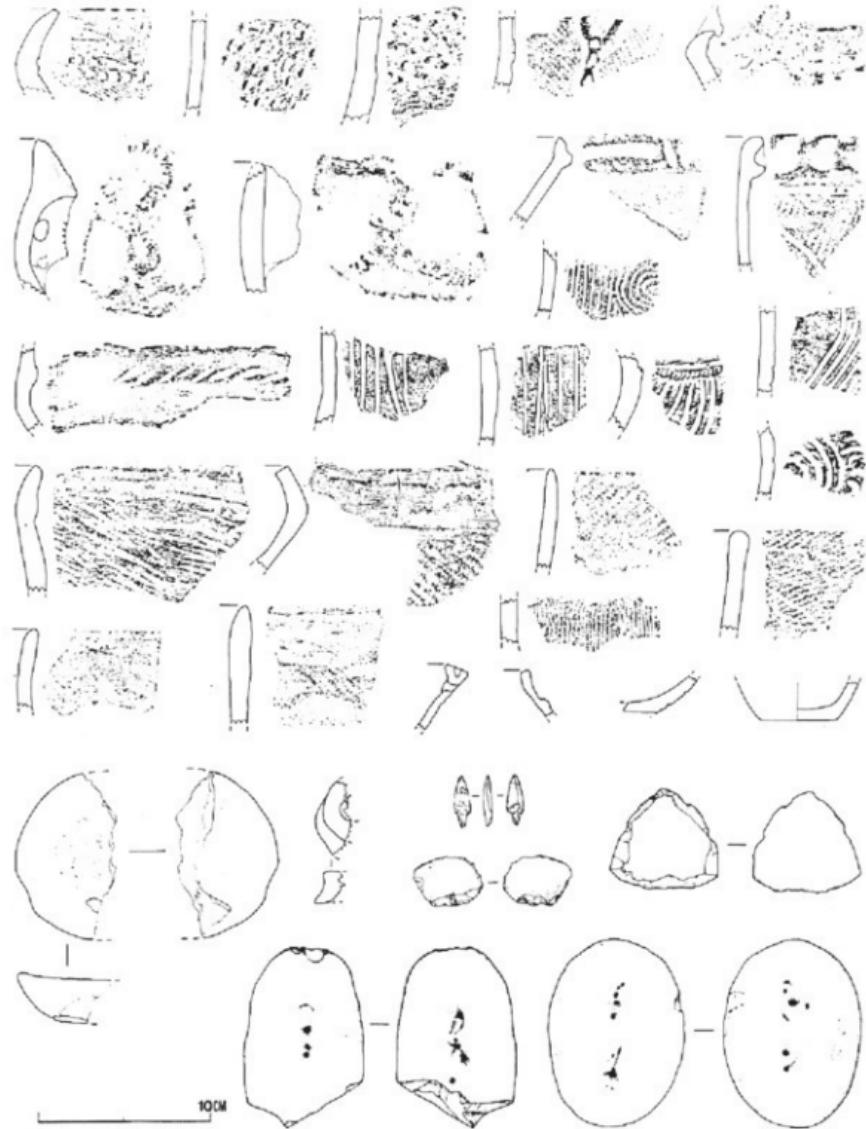


20 岩野原C遺跡

2 遺物包含地

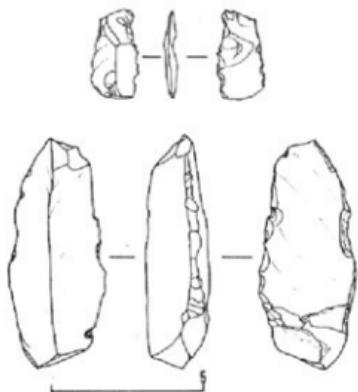
- 3 黒水字岩野 233-2、236-2、
237-1,2、238-1,2、239、
239-2、240-1、241-1,2、
242
- 4 加茂川右岸の段丘上。いわゆ
る岩野原台地の麓に当たる宅
地内。
- 5 不確実だが60×80m程が考え
られる。
- 6 繩文土器、石器（石燃、スク
レイバー、くぼみ石、面取石、
他）
- 7 繩文時代後期～晩期
- 8 加茂市教育委員会
- 10 採土工事により周辺の各地に
出土され、あちこちに遺物が
分散している。現在でも多量
の遺物が散在している。





21 田中屋敷遺跡

- 2 遺物包含地
- 3 上大谷字鳥越 370-1~376
- 4 山麓に統く丘陵上。畑地。
- 5 100×200m
- 6 スクレイバー、フレーク
- 7 繩文時代
- 8 加茂市民俗資料館



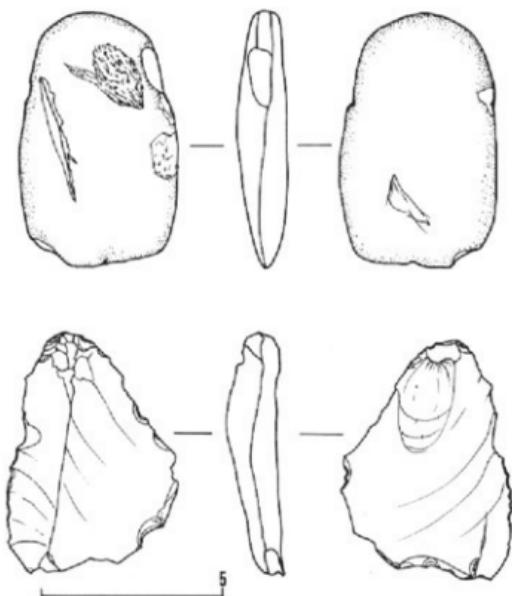
22 蚊口太遺跡

- 2 遺物包含地
- 3 中大谷字升沢 339~345
" 字蚊口太 329~337
- 4 山麓に続く丘陵端、畑地。
- 5 不確実だが60m四方程と考える。
- 6 繩文土器
- 7 繩文時代
- 8 加茂市教育委員会
- 10 田中屋敷遺跡の南西 250m,



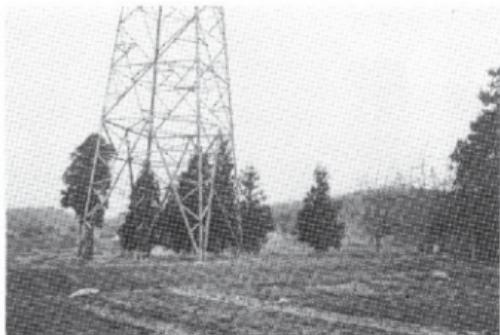
23 剣干場遺跡

- 2 遺物包含地
- 3 宮寄上字小俣2597~2604
2707~2718
- 4 山麓台地、北向きの舌状台地
の端部。現況は山林。
- 5 50×60m
- 6 石器（磨製石斧、鏽石斧、ス
クレイバー、フレーク）
- 7 縄文時代
- 8 加茂市民俗資料館



24 草生津遺跡

- 2 遺物包含地
- 3 中大谷字草生津 436~438
- 4 大谷川左岸の段丘上。畠。
- 5 約30×40m
- 6 フレーク
- 7 繩文時代
- 8 加茂市教育委員会
- 10 近世石造物1基あり。



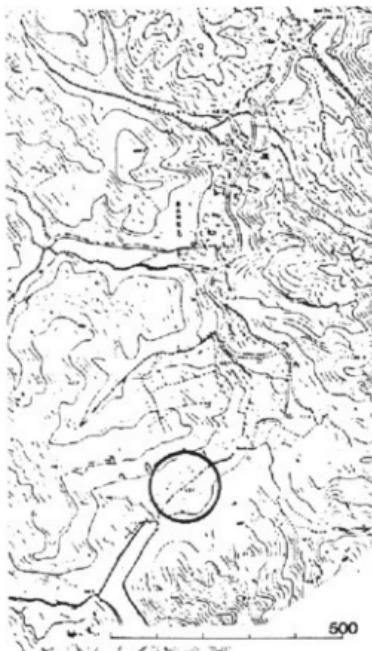
25 岩野原D遺跡

- 2 遺物包含地
- 3 黒水字岩野 306-1~310
- 4 山麓台地。いわゆる岩野原台
地の北側平坦地。現況は畑。
- 5 約50×90m
- 6 石器（くばみ石）
- 7 純文時代
- 8 加茂市民俗資料館



26 上黒水遺跡

- 2 遺物包含地
- 3 上黒水字沢通1622
- 4 西山川左岸の河岸段丘上、畑。
- 6 石器（礫器、くぼみ石、他）
- 7 繩文時代
- 10 現在では明確な地点が把握できない。



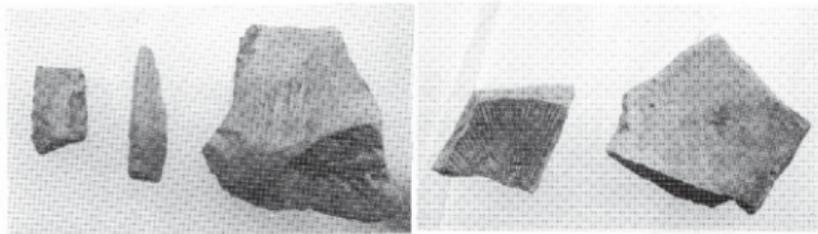
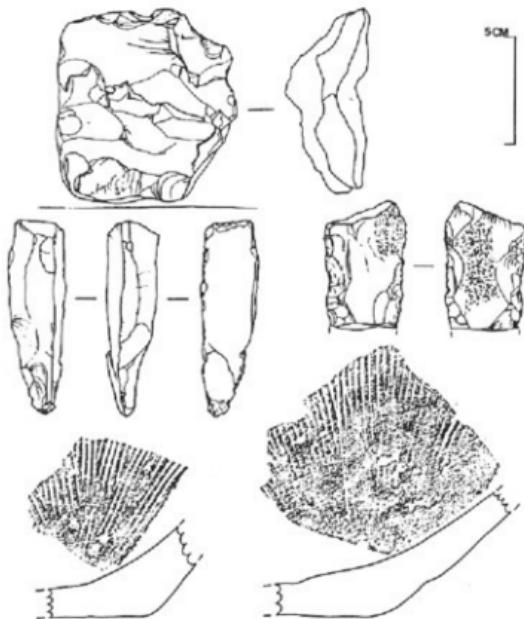
27 川向遺跡

- 1 №.12
- 2 遺物包含地
- 3 下高柳字川向 844
- 4 加茂川左岸の河岸段丘上。山林。
- 5 不詳
- 6 繩文土器
- 7 繩文時代後期
- 9 「新潟県史跡名勝天然記念物調査報告書第七集」
「加茂市史（上）」



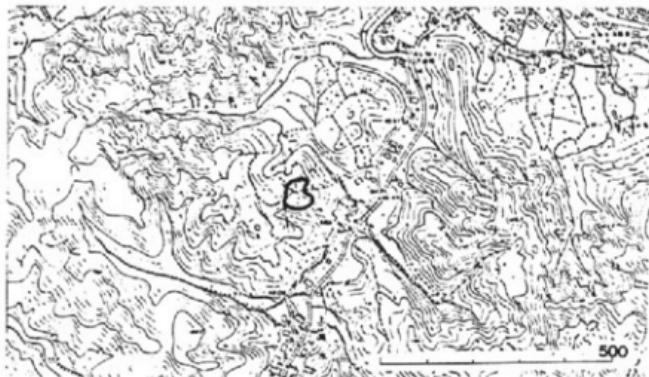
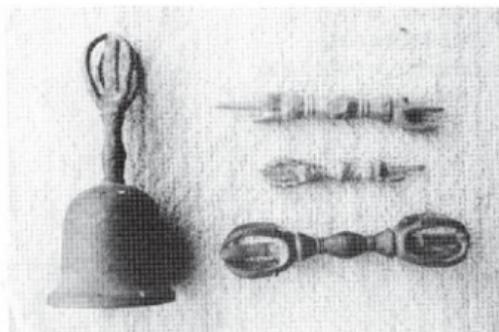
28 諏訪神社前遺跡

- 2 遺物包含地
- 3 宮寄上字小乙 414-2、420-甲子、421～422、422-子、424-1～3、425、426-1、427～429、298
- 4 小乙川左岸の台地。現況は水田、池泉。
- 5 南北60m、東西80mほど。
- 6 石器（石鎚、礫器、石皿、フレーク）、須恵器系中世陶器（擂鉢）
- 7 繩文時代、室町時代
- 8 加茂市民俗資料館
- 10 繩文時代と中世の複合遺跡。
隣接して宝生院址あり。その関連遺物か。



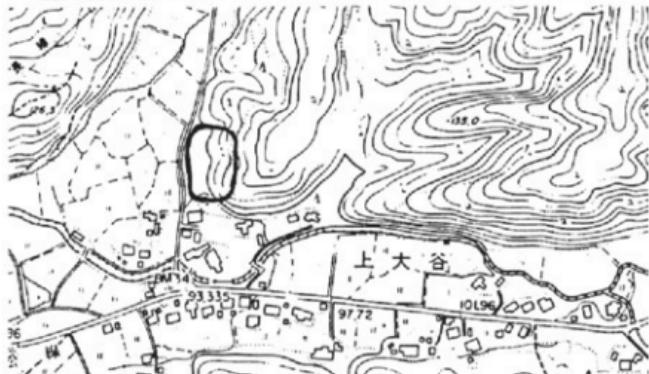
29 賢聖寺跡

- 2 寺院址
- 3 黒水字沢田2309～2315
- 4 上黒水背後の尾根上、南へ張り出した舌状台地。
- 5 東西15m×南北42mの台地を中心にして周辺の台地に広がるものと考えられる。
- 6 五鉢鉈1、五鉢杵2、三鉢杵（木製）1、六器4、花瓶1、木片1、陶製壺（容器）
- 7 室町時代
- 8 鶴巻彌氏
- 9 「加茂市史（下）」
- 10 出土した密教法具の容器は15世紀以降の所産であるが法具は13世紀、14世紀の各時代のものであろう。通称“寺山”。



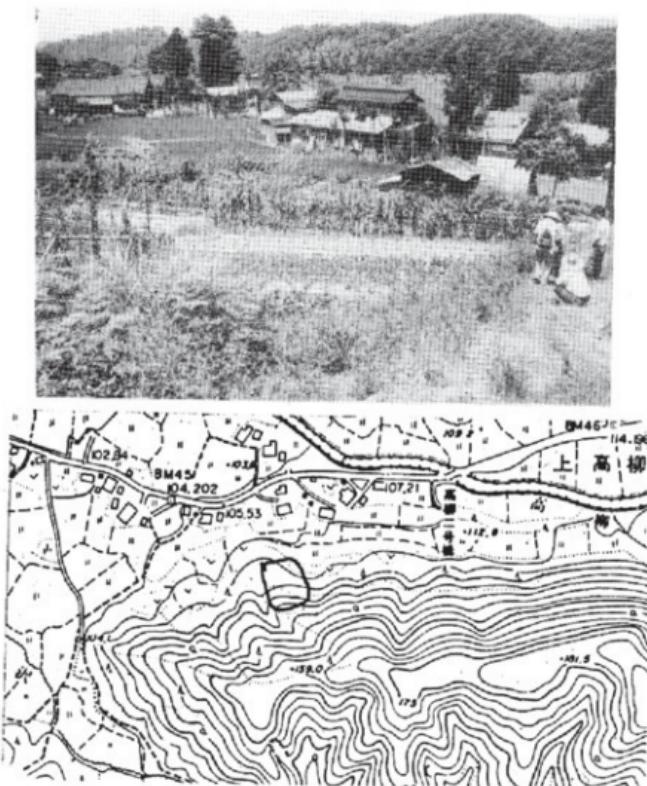
30 寺院跡

- 2 寺院址
- 3 中大谷字飯山 442~444
- 4 西向きの山麓。現況は墓地、山林。
- 5 30×40mの平坦地
- 6 真言宗東龍寺跡といわれている。現在背後の斜面は旧墓地となり、村の半数程の古い墓塔がある。



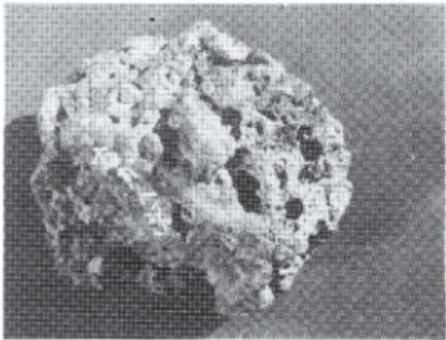
31 善興寺跡

- 2 寺院址
- 3 上高柳字明毛 513~517
- 4 北向きの山麓。現況は畑。
- 5 40×50m程
- 6 槍、陶磁器（皿）
- 7 室町時代後半
- 8 「加茂市史（下）」
- 10 現在下高柳の高柳山善興寺跡
といわれている。



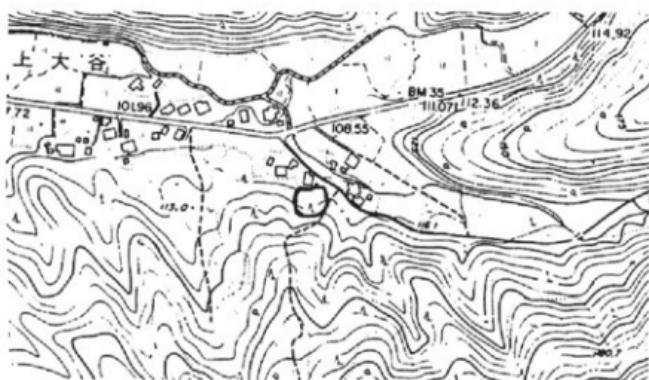
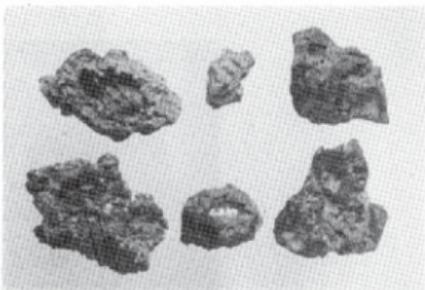
32 なかん沢遺跡

- 1 №29
 - 2 製鉄遺跡
 - 3 下土倉字中の沢 601-1
 - 4 山麓に近い深い谷間。
 - 5 鈴洋
 - 6 加茂市教育委員会
 - 7 「ふるさと歴史散歩」
 - 10 鎔物場跡といわれていたが、現在開発等のため湮滅したと思われ確認できない。



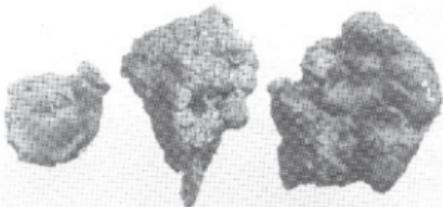
33 石五郎屋敷遺跡

- 2 製鉄道路
- 3 上大谷字真木ノ入 271
- 4 大谷川左岸の山麓台地。北向
きの緩斜面。現状は畑。
- 5 約20×20m
- 6 鉛滓、炉壁
- 7 古代または中世
- 8 加茂市民俗資料館
- 10 一次製鉄址と考えられよう。



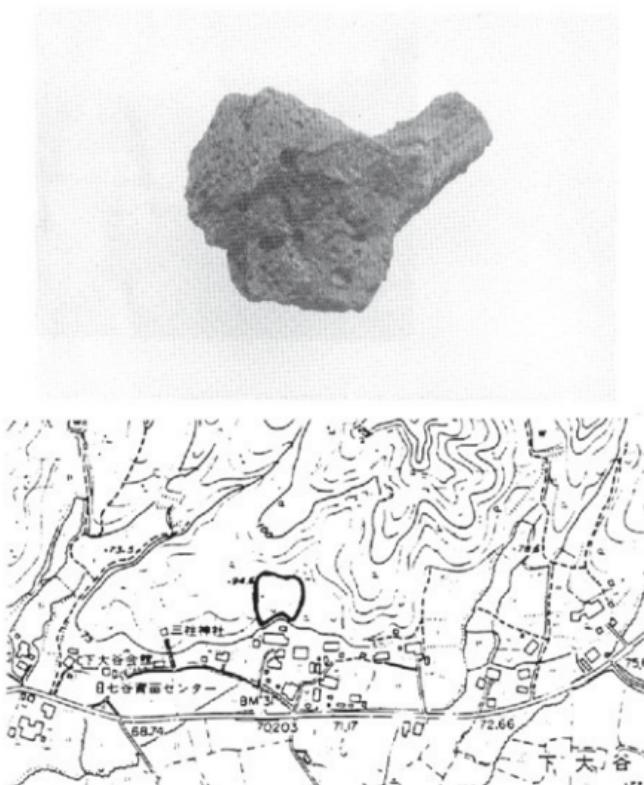
34 御所平道路

- 2 製鉄遺跡
- 3 上高柳字御所平1051～1064
- 4 高柳城址（山城）山麓の南向
き舌状台地。現況は畑。
- 5 60m四方ほどに遺物が散在し
ている。
- 6 鉛滓
- 7 古代または中世
- 8 加茂市民俗資料館
- 10 山城や居館址と当遺跡を関連
づける資料はない。一次製鉄
址であろう。



35 たて屋敷遺跡

- 2 製鉄遺跡
- 3 下大谷字岩野 593-1～594-1
- 4 大谷川右岸の山麓。南西へ延びる尾根の側面。現況は山林。
- 5 地形等の推測から40m四方と
考えられる。
- 6 鉱滓
- 7 古代または中世
- 8 加茂市民俗資料館



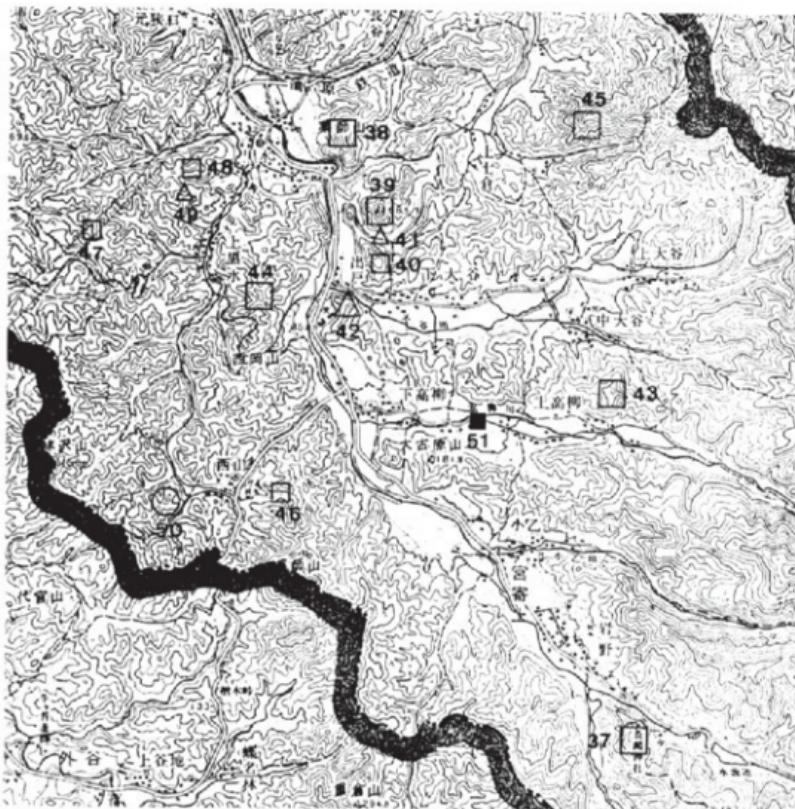
36 岩野古銭出土地

- 1 No.3 1
- 2 古銭出土地
- 3 宮寄上字長瀬1086-1～2
- 4 加茂川右岸の段丘上。現況は
宅地。
- 5 唐銭～明銭（開元通宝～永樂
通宝、宣德通宝）約17kg
- 6 室町時代
- 8 小柳利之氏
- 9 「加茂市史（上）」



城館址

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 37 岳山城址 | 42 木戸口里柵 | 47 西ヶ峯城址 |
| 38 薬師山城址 | 43 高柳城址 | 48 西ヶ峯里柵 |
| 39 石高山城址 | 44 下大谷城址 | 49 西ヶ峯砦址 |
| 40 石山城址 | 45 上土倉城址 | 50 障塲跡 |
| 41 出戸里柵 | 46 西山城址 | 51 下屋敷館址 |



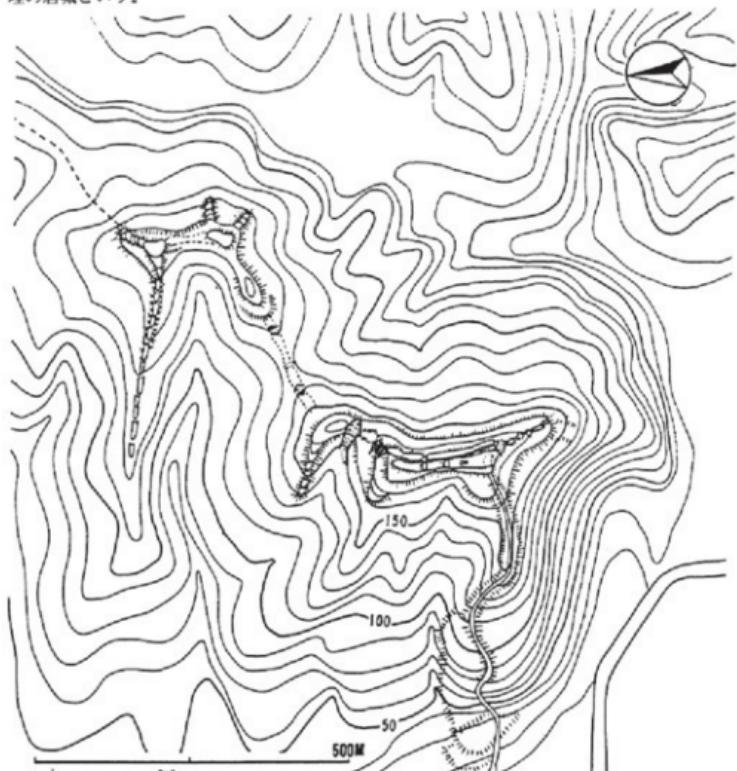
37 岳山城址

- 1 № 25
- 2 山城
- 3 宮寄上字長瀬1555
- 4 加茂川最上流左岸の険しい山陵。
- 6 空堀4条、主郭、腰郭あり。
- 7 中世
- 9 「加茂市史（下）」
「ふるさと歴史散歩」
「加茂市の文化財」
- 10 西側は長瀬神社の削平によつて原形をとどめない。新田義宗がたてこもり越後北邊の敵に対した所といわれている。



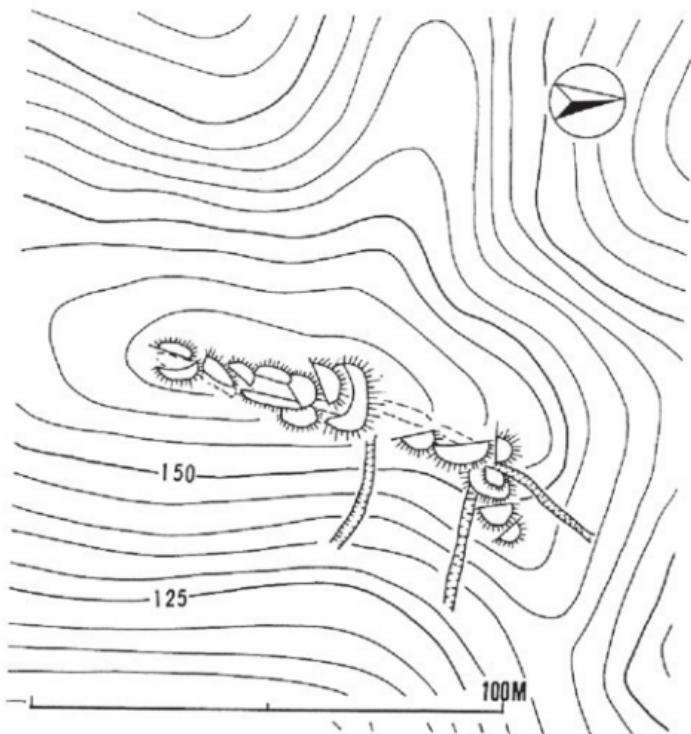
38 薬師山城址

- 1 № 28
- 2 山城
- 3 黒水字岩野 349
- 4 加茂川右岸に聳え立つ山頂。
- 5 二重式空堀を含めて6条。郭は大小2箇所に別れ、北方に主郭を要する。
- 7 中世
- 9 「加茂市史（下）」
- 10 黒水城、虚空蔵山城の別名あり。佐々木盛綱の一族長谷修理の居城という。



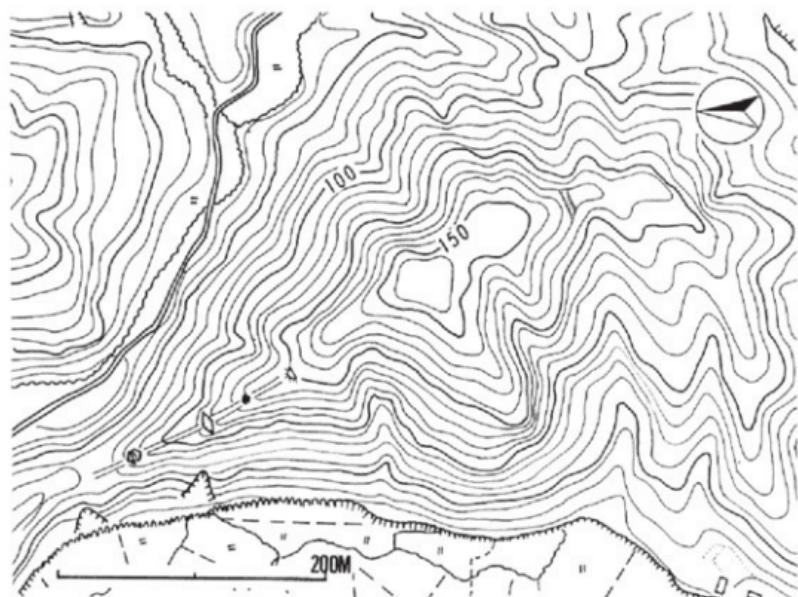
39 石高山城址

- 1 № 27
- 2 山城
- 3 下大谷字虫谷 674
- 4 標高 168mの山頂にあり、深い沢道《旧街道》を隔てて南側の石山城址と対する。
- 5 狹い山険に16の郭と3条の縱堀を見る。
- 7 中世
- 9 「加茂市史(下)」
- 10 山麓より波金銅製品(火舎香炉)が出土。南側中腹に出戸里櫓あり。



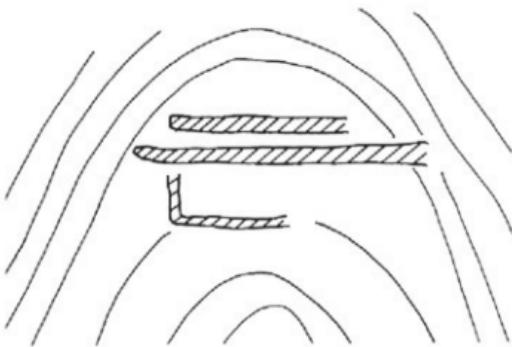
40 石山城址

- 2 山城
- 3 下大谷字岩野 777
- 4 出戸口北側から加茂川に面して延びる狭い山陵。北に旧土倉道、南に大谷口、西に加茂街道を見おろす。北側対岸に石高山城、南側対岸に木戸口空堀と相对する。
- 5 北西尾根に3条、南に1条の大規模な空堀と小郭1を有するが、主郭と思われる山頂は人工を加えない。
- 7 中世



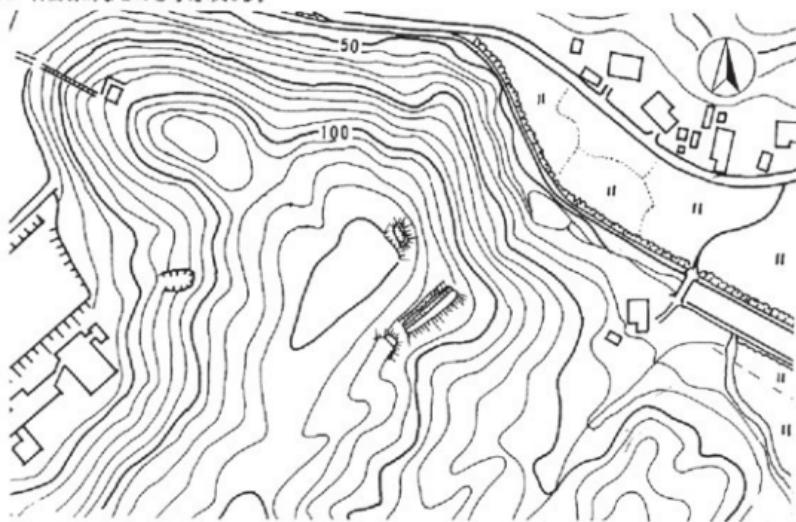
41 出戸置柵

- 2 要害
- 3 下大谷字虫谷 677
- 4 石高山城址南側の中腹斜面。
背後は急斜面となる。
- 5 小沢の頂部に3条の石積の置柵。96m、28m、15mを計る。
- 7 中世
- 10 石高山城に関連するものか、
別個の要害か？



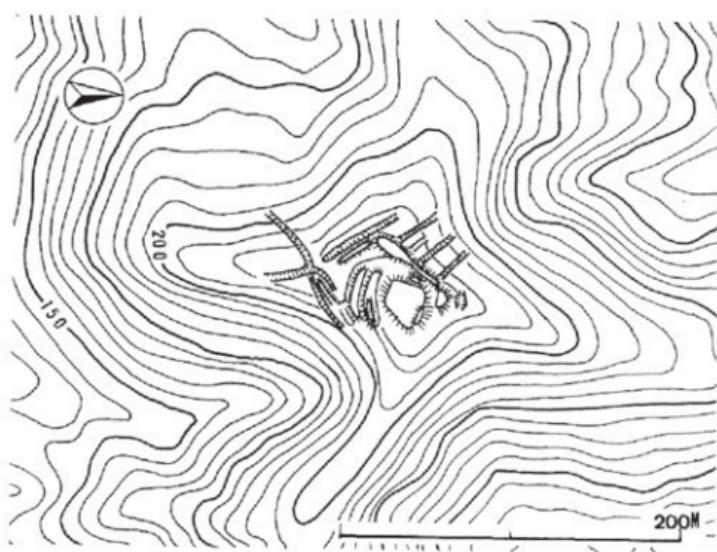
42 木戸口置柵

- 2 要害
- 3 下大谷字菅ノ谷地
- 4 出戸口南側の山頂直下にある。
北側に石山城址と相対する。
- 5 南北53mの2段の土塁を要し
て 306m²の窪地をつくり、北
側には小土塁を有する方形の
堅穴状遺構がある。
- 7 中世
- 10 村要害的なものと考えられる。



43 高柳城址

- 1 № 2 6
- 2 山城
- 3 上高柳字要害1012 他
- 4 標高 225mの山頂から山腹にかけて遺構が見られる。
- 5 最長 104mを測る空堀を主とし、6条の縦堀、273m²の主郭を始め13郭を有し各所に土塁を見る。その他土塁、穴を見る。
- 6 中世
- 7 「加茂市史（下）」
- 10 別名要害山城、通称御殿山、城主北川大学、森岡五郎左エ門。山腹に御前清水あり。山麓に御所平、下屋敷、番馬田の地名あり。



44 下大谷城址

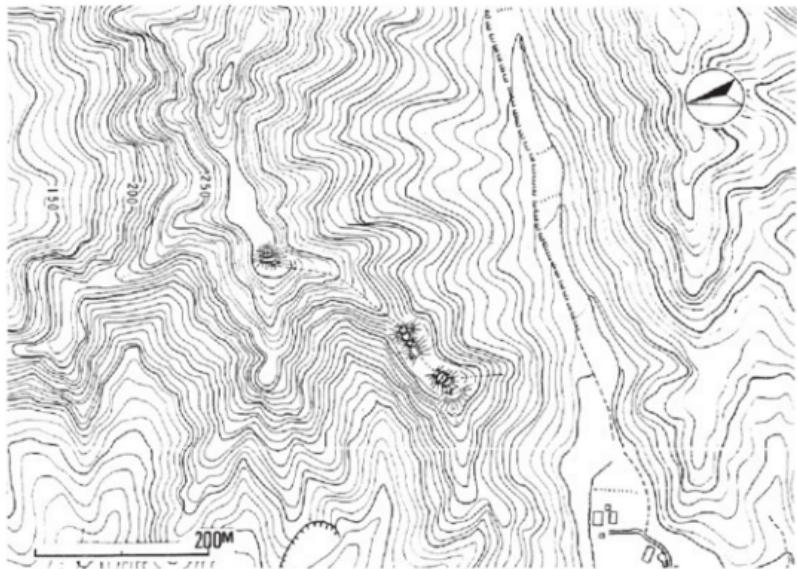
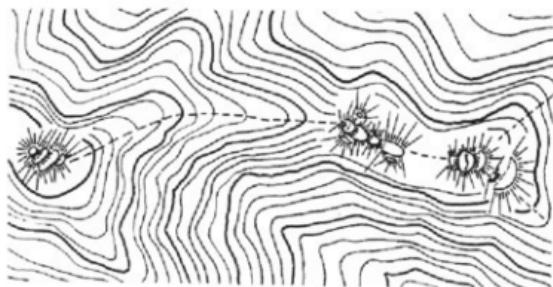
- 2 山城
- 3 上里水1080-1、1081、1074、
1076 他、下大谷字住岡1111
-1、1112、1113、下高柳字川
向（または諏訪の沢）968-1
他
- 4 加茂川左岸の標高147mの険
しい山頂から山陵、西側眼下
に西山街道を望む。
- 5 空堀3条、主郭を含め7郭。
- 7 中世



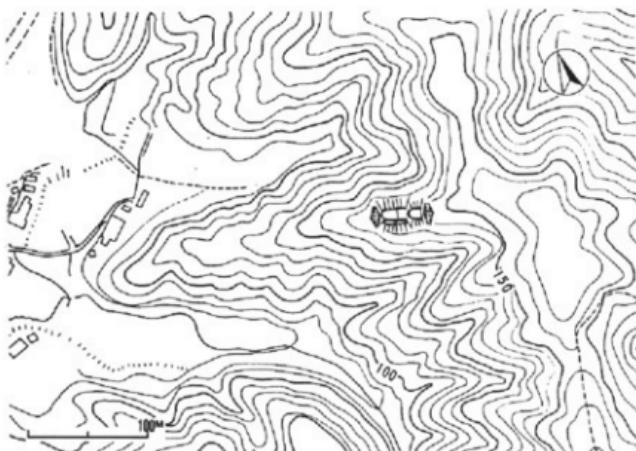
45 上土倉城址

2 山城

- 3 上土倉字入山33、51-1、53、
65、上土倉字上山 220-1、221
222-2、下土倉字イハンカ沢
53、54、61、63、64
- 4 上土倉東方に聳える峻険な山
陵にあり、眼下に村松ルート
を望む。
- 5 山頂に近い郭群と尾根先端部
に位置する郭群とに分離する
が、総計18郭を数える。
- 7 中世
- 10 現存の調査では堀跡等の
確認に至っておらず、空
堀を含めてさらに多くの
遺構が発見されることで
あろう。



- 46 西山城址
- 2 山城
 - 3 西山字大櫻屋614-甲
 - 4 西に延びるやや緩やかな尾根の中間に立地する。北西前方
 - 5 前後2条の空堀と3郭を見る。
 - 6 西山字釜ノ入677
 - 7 中世
 - 10 西方に陣場、山麓に舞台の地名あり。写真は西山城址。



47 西ヶ峯城址

- 2 山城
- 3 字黒水1333-1（通称西ヶ峯）
- 4 上黒水部落の西方1100m地点で標高150mの山頂。
- 5 空堀1条、三角形の主郭
- 7 中世

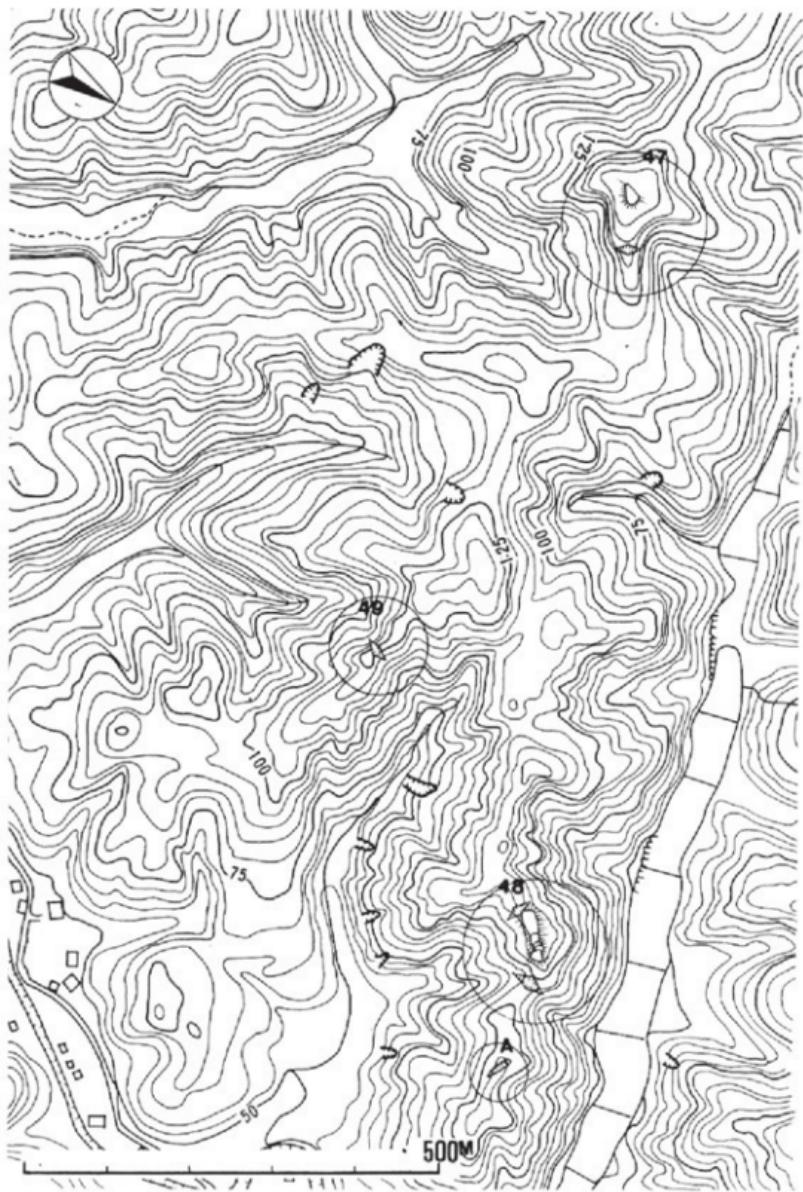


48 西ヶ峯里柵

- 2 要害
- 3 字黒水 1325-乙、1348-子
- 4 黒水部落の西方500mの緩やかな尾根の中腹部に位置する。
- 5 空堀2、大小10の郭を見、北側に広い湿地を有する。
- 7 中世
- 10 村要害か。Aは土坑遺構である。

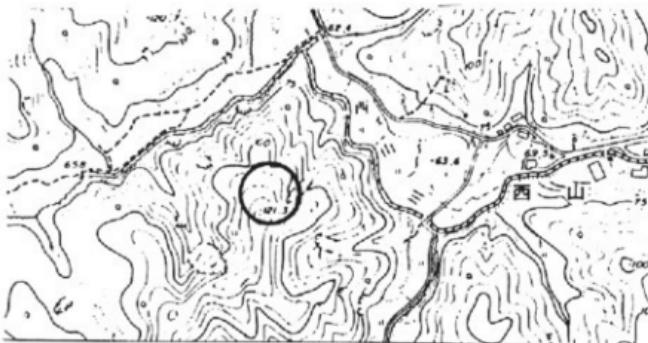
49 西ヶ峯砦址

- 2 山城
- 3 字黒水1341、1346
- 4 西ヶ峯城址の北東隣線上約600m地点に位置し、峻険な山地である。
- 5 空堀1、主郭は特に人工を加えていない。
- 7 中世
- 10 西ヶ峯城の出城的存在と思う。



50 陣場跡

- | | |
|--|--------------------------|
| 2 史跡 | 5 特に人工的造構はないが平坦地である。 |
| 3 西山字見田沢 | 7 中世 |
| 4 西山川左岸の尾根上、旧西山
街道が直角に曲がる角地前面
に立地する。 | 10 西山城の出城か。地元の口碑
に残る。 |



51 伝下屋敷館址

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 2 居館址 | |
| 3 上高柳字中丸 343-1、344-15、
579、580 | |
| 4 高柳川左岸の河岸段丘。畠。
5 60×60m | |
| 7 中世 | |
| 10 高柳城主の居館址の口伝あり。 | |



52 七聖1号塚

- 1 № 3 7
- 2 塚
- 3 下高柳字川向 865-1
- 4 加茂川左岸の河岸段丘上。水田脇に位置する。
- 5 直径 3.8m、高さ 0.6mの円形。0.7m幅の周溝あり。
- 7 中世
- 9 「加茂郷土誌(10)」「ふるさと歴史散歩」
- 10 戒徳院と称する山伏外七人の徒者の伝承や、後白河上皇の第二王子以仁王の伝承がある。1号、2号塚は別名江の沢古墳とも呼ばれている。



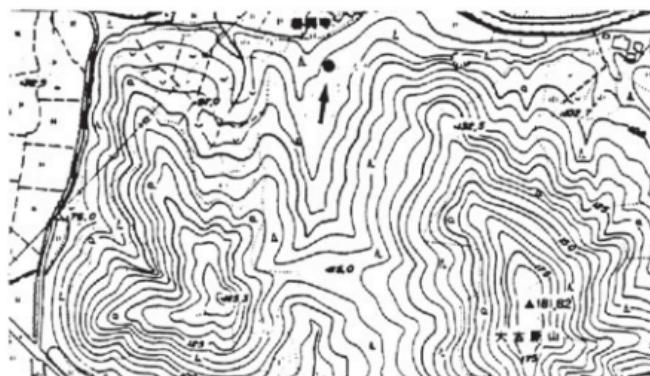
53 七聖2号塚

- 1 № 3 7
- 2 塚
- 3 下高柳字川向 853、854
- 4 1号塚と同じ
- 5 直径 7.3×7.7m、高さ 1.0mの円形。浅い周溝の痕跡あり。
- 7 中世
- 9 1号塚と同じ
- 10 盗掘により中央部破壊。
写真上1号塚、下2号塚



54 七聖3号塚

- 1 № 3 7
- 2 塚
- 3 下高柳字谷地 627-1,2
- 4 太古原山北側の山麓
- 5 直径 7.4m、高さ 1.2m。円形。
- 6 頂部に相輪 3、笠（宝鏡印塔）
- 7 中世末期
- 8 1号塚に同じ
- 9 石造物と塚との関連は不明。



55 七聖4号塚

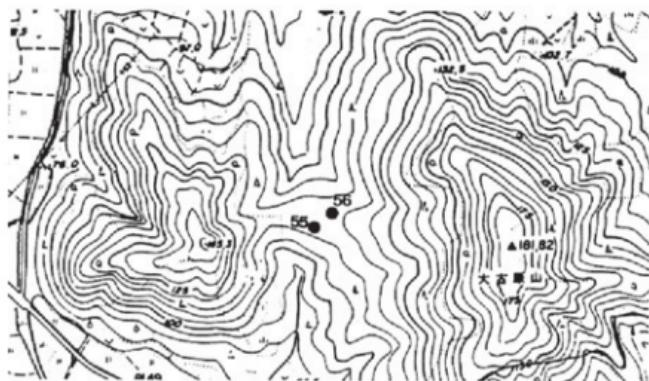
- 1 № 3 7
- 2 塚
- 3 宮寄上字三場 62-13
- 4 太古原山西方の尾根の鞍部
- 5 直径 6m、高さ 1.4m。円形。
- 7 中世末期～近世
- 9 1号塚に同じ
- 0 顶部に小砂利多数あり。石経塚か。



56 七聖5号塚

- 1 № 3 7
- 2 塚
- 3 下高柳字赤毛 702-2, 709
- 4 4号塚東方の尾根の緩斜面
- 5 直径 7.5× 8.6m、高さ 1.5m。円形アラン。頂部に人頭大の石あり。
- 7 中世
- 9 1号塚に同じ
- 10 顶部に直径 2m、深さ 0.4m の窪みあり。盜掘穴であろう。

写真上 4号塚、下 5号塚。



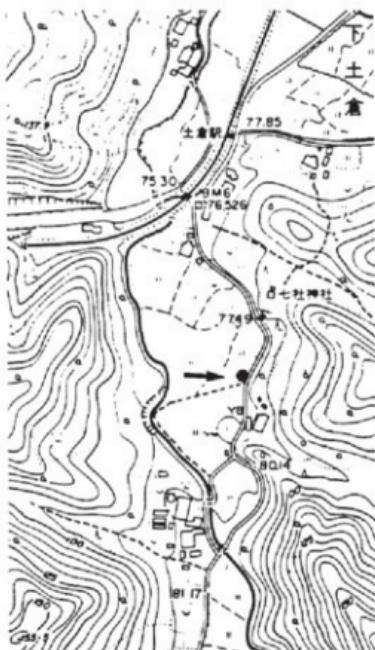
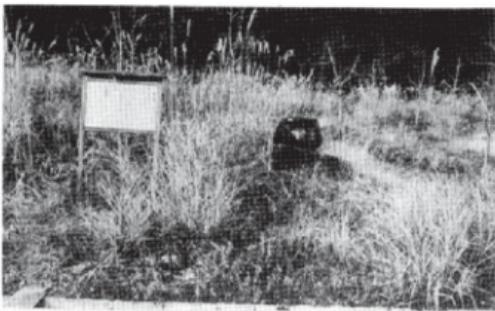
57 芹沢の塚

- 2 塚
- 3 上土倉字芹沢 551
- 4 沢に面した尾根の淵。眼下を
街道が通る。
- 5 直径 5.5× 6.0m、高さ 1.0
m、山側にかけて幅 1.5~
2.2mの浅い周溝が見られる。
- 7 中世?



58 灰 塚

- 2 塚
- 3 下土倉字灰場 584-1
- 4 山麓台地端
- 5 直径 4m、高さ 0.7mの円形。
マウンドの上部へ大石2個を
積重ねている。下石径 115cm、
上石径80cm。
- 10 加茂次郎義綱の茶毘にふされ
た地に所以するものと伝えら
れている。



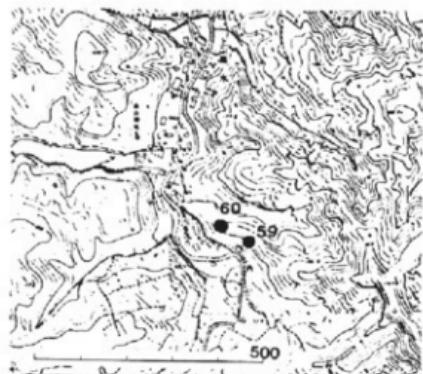
59 上黒水1号塚

- 2 塚
- 3 上黒水字沢通1106
- 4 旧西山街道（沢通道）沿いの狭い瘦尾根の陸線上にある。
- 5 北側は沢に向かって一部崩壊しているが、直径 $4 \times 4.5\text{m}$ の円形で幅 1.5m 、深さ 1.0m の周溝がある。
- 10 地元では昔から塚の口伝がある。写真上1号塚。



60 上黒水2号塚

- 2 塚
- 3 上黒水字沢通1106
- 4 1号塚と同じ尾根の先端部にある。
- 5 残存直径 $3.4 \times 4\text{m}$ の円形。南側に深い土坑状の遺構があり、沢につながる。
- 10 現状では崩壊がはげしく塚遺構とは見られないが、地元民は昔から1号塚と共に塚との口伝がある。写真下2号塚。



61 谷地田の塚

- 2 塚
- 3 西山字谷地田 553-6、574-27
～56
- 4 尾根先端部、西側に旧街道の
峠道がある。
- 5 4.0 × 4.6mの一辺を測る方
形で、高さは 1.0m。頂部は
円形を呈す。
- 6 古銭、石造物基台
- 7 江戸時代？
- 10 近年まで3～5基の塚が存在
していた。これらの内より石
塔、五輪塔が出土したが散逸
した。



62 寺下の塚群

- 2 塚及び石塔群
- 3 上高柳字寺下 285
- 4 高柳川右岸の河岸段丘上で水
田の一角。
- 5 昔あった塚はその遺構を消滅
しており、現在では石塔11基
が建立する。
- 6 「垂寒念佛供養塔」天正四年
「垂寒念佛塔」天正六年
講中
（略）」「垂寒念佛塔」天正九年
（人名略）」「垂大乘妙典日
本巡國塔」天正九年
「垂寒念佛塔」天正九年
講中（略）」「
「垂寒念佛供養塔」天正九年
（略）」「
「垂庚申塔」」「
「垂馬頭觀世音
塔」「光明塔」天正九年
「垂寒
念佛供養塔」天正九年
（略）」



7 江戸時代～昭和

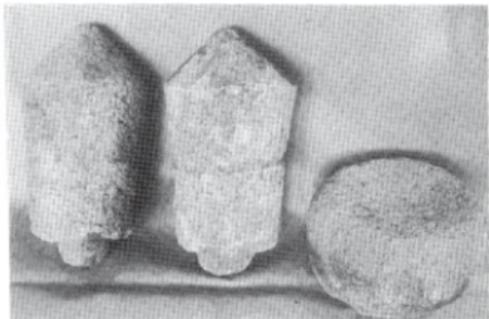
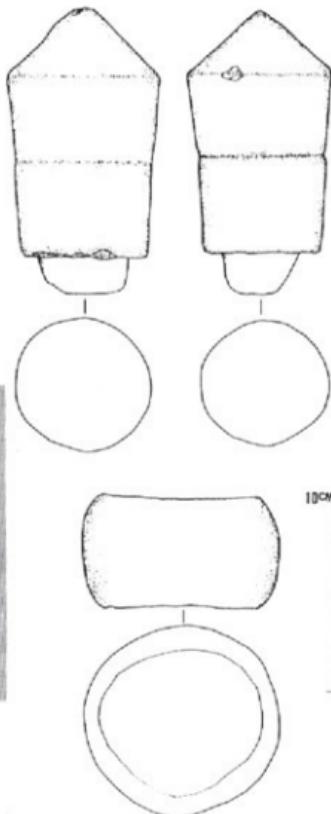
63 菅ノ谷地

- 2 窪
- 3 下大谷字菅ノ谷地 116、117
- 4 尾根中段の広い台地、山林。
- 5 径 $4.1 \times 2.8m$ 、高さ $0.7m$ 、
楕円形の凹窪、一部欠壊。
- 10 一部削平された痕跡あり。



64 箕淵の塚

- 2 塚
- 3 下高柳字箕淵
- 4 高柳川の河岸段丘の水田地帯。現況は畑、雜種地。
- 5 現在遺構は削平されて不明だが径7~8m程の塚が存在したと考えられる。
- 6 空風輪2、水輪1
- 7 室町時代末期~
- 8 加茂市民俗資料館
- 10 土取りにより塚は削平されたが、内部遺構の残存が考えられる。



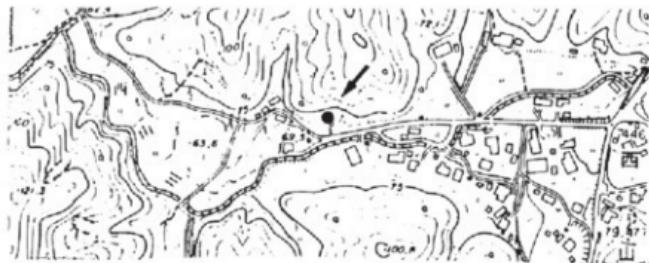
65 かご掛松の塚

- 2 塚
- 3 宮寄上字広田2256、2337
- 4 標高 240mの崖線上で「殿様街道」と呼ばれる旧道に添う。
- 5 底辺 5m、頂部 2.5m、高さ 2.5mの方形である。
- 7 江戸時代？
- 10 旧道の休息地点であったといふ。



66 行塚

- 2 塚
- 3 西山字行塚
- 4 山麓に近い急斜面。現況は墓地、山林。
- 5 一边 4.5m、高さ 2mの基壇の上に方丈の地蔵堂宇あり。その基壇が塚だという。
- 6 石造地蔵尊
- 10 周辺に土取りの痕跡あり、さらに調査を要する。
疫病から西山部落を守るために六部が生仏となつたといふ。



67 広田の塚

- 2 塚
- 3 宮寄上字広田2012-1
- 4 山麓台地端、旧道沿い。現況
は畑、山林。
- 5 直径 6m、高さ 1mの円形。
礫を多量に内蔵する。
- 6 宝鏡印塔 2、地蔵 1
- 7 南北朝時代、室町時代末期
- 10 塚の時代は不明であるが宝鏡
印塔の1つは南北朝、他は室
町末期のものであろう。



68 上の田板碑A

- 2 板碑
- 3 宮寄上
- 4 加茂川右岸の河岸段丘。墓地内。
- 6 山形板碑。下部欠損。(18.5)
×22.5× 9.5cm、方形線刻、天蓋。
- 7 南北朝時代
- 10 下部欠損のため種子は不明だが天蓋と共に深い薬研形や突起顎部等古い形態を呈する。写真上。



69 上の田板碑B

- 2 板碑
- 3 宮寄上
- 4 河岸段丘、水田内の墓地。
- 6 山形板碑。突起顎部と二条線
を有し、**酉**種子、76×31×13
cm。
- 7 南北朝末期～
- 10 碑面風化によって不明瞭だが
3～4行の文字あり。写真下



70 中丸の板碑

- 2 板碑
- 3 上高柳字中丸600
- 4 高柳川の扇状台地。水田内の墓地
- 6 山形板碑。二条線と柄を残す。
50.5×18.2×7.5 cm (凝灰岩)
- 7 室町時代
- 10 碑面風化のため文字見えず。
当墓地は移転前の善興寺の旧墓地と伝える。周辺に墓標と思われる石仏(地蔵尊)4体あり。



71 善興寺の石造物

- 2 石造物群
- 3 下高柳字笠瀬627-1
- 4 山麓の墓地
- 6 イ. 石仏（阿弥陀如来坐像半肉身花崗岩積石仏）
- ロ. 板碑（山形板碑、二条線、下部欠損、背か？）
- ハ. 相輪（宝篋印塔相輪残欠、高さ50cm）
- ニ. 笠（宝篋印塔笠部残欠）
- 7 イ～ハ南北朝時代、二室町時代



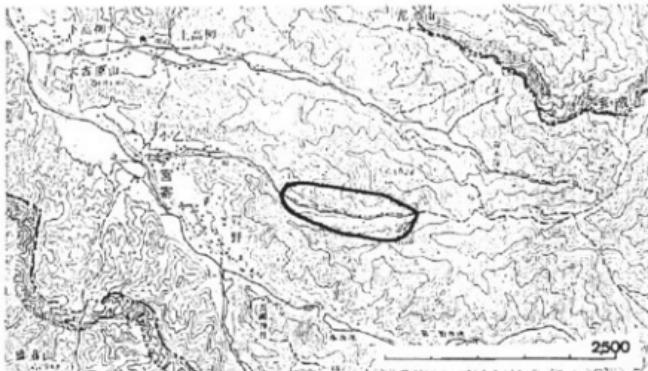
72 段の平の石造物
(新田義宗一族の墓)

- 1 № 24
- 2 石造物
- 3 宮寄上字長瀬1208 通称“段の平”
- 4 山麓の狭い舌状台地。墓地。
- 5 20×30m 内に古式の墓塔が並ぶ。
- 6 宝篋印塔各部残欠(約10基分)
板碑(山形、二条線)高さ40cm
- 7 室町時代
- 9 「加茂市史(下)」
- 10 ここでは中世と考えられる石造物を取り上げたが、その他
の石仏・石塔等はすべて江戸時代のものである。写真上の
宝篋印塔は小規模な塚状マウンドの上に建つ。



73 小乙鉱山

- 1 №36
- 2 鉱山跡
- 3 宮寄上字三場 355、367
宮寄上字岩野 401～404
- 4 深い沢の両面。山林。
- 5 鉱口7、選鉱場等。
- 7 江戸時代（安永8年）～明治
時代
- 9 「ふるさと歴史散歩」
- 10 関連資料は加茂市民俗資料館
等にある。



74 爪切り不動尊

- 2 石仏
- 3 宮寄上字長瀬1556-1
- 4 断崖中腹
- 6 不動明王立像（舟形後背）
33×18× 8cm
- 8 嵐山寺管理
- 9 「ふるさと歴史散歩」
- 10 位置図は“106 嵐山寺の庚申塔”参照。



75 小乙の宝篋印塔

- 2 石塔
- 3 宮寄上字岩野716
- 4 山麓。路傍の堂宇内に安置。
- 6 宝篋印塔残欠。笠、相輪。
- 7 室町時代～
- 8 小乙部落管理
- 10 地先の道路拡幅工事の際出土。
北方に伝宝生院址あり。関連品か。



76 広田の石塔群

- 2 石塔
- 3 宮寄上字広田2024-1
- 4 山麓台地端、旧道脇。畑。
- 6 「垂南無阿□□天保三年一月
吉日」「光明真言□」
- 7 江戸時代
- 10 六字名号塔は土中に深く埋ま
り下部の文字不明。自然石。



77 宝興寺の石塔群

- 2 石塔
- 3 下大谷字熊ノ沢
- 4 山麓。谷城山宝興寺境内。
- 6 「奇觀と美術」「弘法大師一千年忌塔 天保12年 当寺現住榮仙代」その他笠塔、蝶形供養塔
1、地蔵菩薩8、觀音菩薩2、
- 7 江戸時代～
- 10 梵字塔アビラウンケンは大日如來（胎藏界）真言。



78 薬師堂の宝篋印塔

- 2 石塔
- 3 下大谷字岩野813-2
- 4 山麓台地、薬師堂境内。
- 6 宝篋印塔残欠（相輪1、笠3、塔身1）
- 7 室町時代末期～
- 10 遺物は堂の周辺から集められたものらしい。薬師堂には元治元年の御神燈一对建立。



79 旧墓地の石塔残欠

- 2 石塔
- 3 下大谷字宮の下320-3
- 4 大谷川右岸の河岸台地。水田内の墓地。
- 6 宝篋印塔残欠（相輪1）。高さ43cm。
- 7 室町時代末期～
- 10 旧墓地で比較的古い墓塔があり、当遺物も墓塔として祀られている。



80 菅ノ谷地供養塔

- 2 石塔
- 3 下大谷字菅ノ谷地105-1
- 4 山麓台地。旧街道脇。
- 5 笠塔婆形石塔 1、總高97cm。
- 7 江戸時代
- 10 碑面摩耗で不明、墓標か。位置図は前ページ参照。



81 三柱神社供養塔

- 2 石塔
- 3 下大谷字岩野591-1
- 4 山麓。三柱神社境内地、中大谷集会所脇。
- 6 笠塔婆形石塔 1
- 7 江戸時代
- 8 「加茂郷土誌(9)」
- 10 碑面摩耗で不明。位置図は次ページ参照。



82 三柱神社の石塔群

- 2 石塔
- 3 下大谷字岩野591-1
- 4 山麓。三柱神社境内、石段脇。
- 6 「寒念佛塔□年」「垂寒念佛塔
塔 天正十五年 」「垂寒念佛塔」
「身寒念佛供養塔 天正三甲 三月二七日 」
「垂寒念佛塔 天正三甲 三月二七日 」
「庚申塔□年」「垂庚申塔
天正三甲 三月二七日 」
「光明真言塔」光明真言塔
「光明真言塔」その他不明塔2.
- 7 江戸時代～
- 8 「加茂郷土誌(9)」



83 岩野原の庚申塔

- 2 石塔及び庚申塚
- 3 黒水字岩野原
- 4 山麓の台地。旧道脇、畑、山林。
- 6 イ. 方形塚 (5.5×3.5 m ,
高さ 2.0m) 「庚申塔
天正十二年
乙未年六月」 「月待供養塔」
地蔵尊 1。
ロ. 「青面金剛像
天正十二年
大内主
願主（略）」
- 7 江戸時代
- 8 「加茂郷土誌 (9)」
- 10 ロは庚申塔唯一の像塔で笠塔
婆形である。



84 草生津の石塔群A

- 2 石塔
- 3 中大谷字草生津381-寅
- 4 山麓台地。水田、旧道駄、
- 6 「光明真言塔」「光明真言塔」
「寒念佛願主(略)」「寒
念佛供養塔」
- 「庚申塔」
- 「庚申塔」「青面金剛塔」
- その他石灯籠残欠。
- 7 江戸時代～昭和5年



85 草生津の石塔群B

- 2 石塔
- 3 中大谷字草生津381-1
- 4 84に同じ
- 6 「寒念佛塔」
「庚申塔」
- 7 江戸時代(明和年間)
- 10 写真下



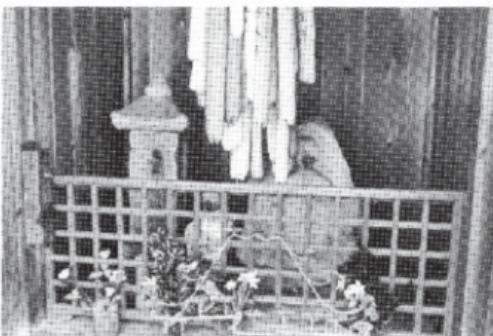
86 あきどおりの地蔵尊

- 2 石仏
- 3 長谷字
- 4 扇状地。旧街道脇、宅地。
- 6 地蔵尊坐像（台座とも總高
2.35m）「文政元年 建
立願主 長谷山慈眼寺 現住
法印良息 八月吉祥日」「右
ハ加茂ちか道 □□□至
「左ハ 離道」
- 7 江戸時代（文政元年）
- 10 堂宇内に安置



87 出土の地蔵尊

- 2 石仏、石塔
- 3 下大谷字出土956
- 4 集落内三叉路
- 6 地蔵尊坐像2、笠塔婆形供養塔「地藏菩薩」
- 7 江戸時代
- 10 石塔の側面等不明
觀世音菩薩ご真言



88 金華様

- 2 石祠
- 3 下大谷字岩野949-1
- 4 山嶺。道路脇。
- 6 小型の石祠。板石を合せたもの。
- 10 地元では道祖神だという。位置図は前ページ参照。



89 鳥越の不動尊

- 2 石仏
- 3 上大谷字鳥越179-乙
- 4 山嶺の岩屋
- 6 不動尊3（凝灰岩）
- 8 部落及び長沢政範氏の管理
- 10 人工の岩屋内に安置



90 烏越の地蔵

- 2 石仏
- 3 上大谷字烏越332-1
- 4 集落中央の道路脇
- 6 地蔵尊立像 1 (頭部欠損)
(65)×59cm
- 7 江戸時代～
- 10 昭和59年頃前面の河川改修工事の際に出土したもの。地元では道祖神様と呼んでいる。位置図は前ページ参照。



91 十二様

- 2 石祠
- 3 上大谷字烏越7-丑
- 4 山麓、10×15mの人工でつくりだした台地。
- 6 石祠 1、湯殿山塔 (欠損) 1
- 10 石祠には十二様 (山の神) を祀る。部落及び長沢政範氏の管理。位置図は前ページ参照。



92 田中の地蔵尊

- 2 石仏
- 3 上大谷字中道395
- 4 村外れの県道脇。地蔵堂宇内。
- 6 地蔵菩薩坐像。台座とも96×
27cm
- 7 近現代？

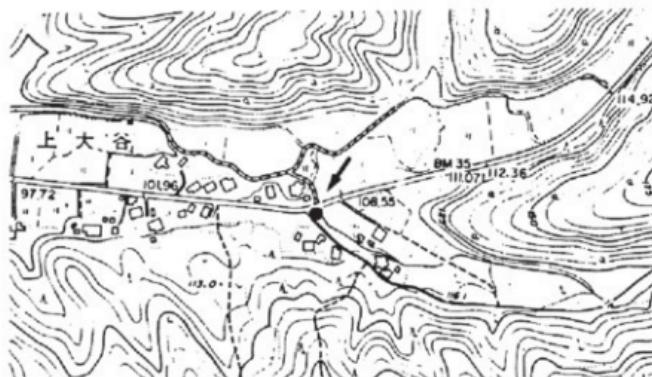


93 諏訪神社の石造物

- 2 石塔
- 3 中大谷字蚊口太244
- 4 丘陵。諏訪神社境内。
- 6 記念碑 2、「至誠会創立二十
周年記念」
- 7 明治時代

94 上大谷の石塔群

- 2 石塔
- 3 上大谷字鳥越270
- 4 集落内の道路。
- 5 寒念仏塔6、庚申塔3、光明真言塔1、湯殿山塔1、石仏その他。
「庚申供養塔天明八年」「寒倉供養塔」「庚申塔」「龜寒念佛元治元年」「地藏」像
「龜寒念佛天明年」「不明」塔
「光明真言□□百一十万辺」「寒念佛塔」「湯殿山大神」「不明」塔
「庚申塔○○明年」「寒念佛」その他石祠2
- 7 江戸時代（天明年間）
- 10 地元ではこの地を庚申様と呼ぶ。



95 金平の石仏

- 2 石仏
 - 3 上高柳字金平1011-1
 - 4 水田内の旧墓地（2ヶ所）
 - 5 地蔵菩薩4
 - 6 近代？
 - 10 10×5m程の墓地域に石仏や古い石塔が散在する。



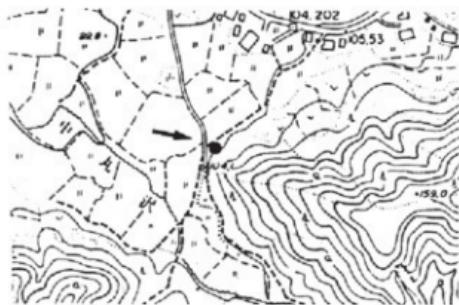
96 湯殿山碑

- 2 石塔
 3 上高柳字坂上、坂下676
 4 山頂。旧街道脇。
 6 「春湯殿山 □□」70×45cm
 10 宮寄上より上高柳へ越える峠の頂上に位置する。



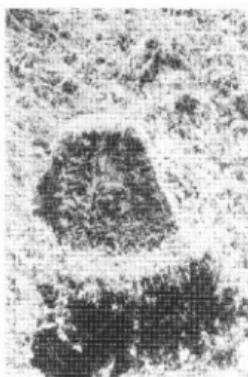
97 明毛の庚申塔

- 2 石塔
3 上高柳字明毛692
4 山麓。旧道脇。
- 6 「昌益庚申塔 文政十一年六月六日」
107×58.5×32cm
7 江戸時代（文化10年頃）
10 文化12、13年と推定される。



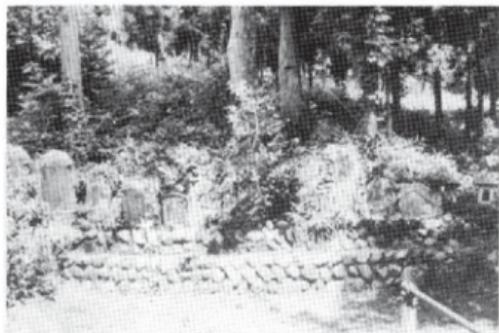
98 御前清水の石祠

- 2 石祠
3 下高柳字山王原67
4 山麓台地。山林。
6 石祠



99 日吉神社の石塔群

- | | |
|--|---|
| 2 石塔 | 46×32 「山の神」 62×43
「寒念佛供養塔 <small>慶應元年正月 九月二十三日</small> 」 |
| 3 下高柳字山王原54 | 103×61 「庚申塔 <small>嘉永六年正月</small> 」 |
| 4 神社境内 | 113×104 「暮青面（土中）」 |
| 6 「大穴牢遯神 <small>壬午年正月</small> 」（題
主略） 103×65 「寒念佛供
養塔 <small>壬午年正月</small> 」 70×31 「光
明塔」 36×16.5 「寒倉塔
<small>癸未年正月</small> 」 68×45 「金神」 | (47)×44 〈単位cm〉
その他不明塔3基、石祠1 |
| | 7 江戸時代～明治時代（文化6
年～明治4年） |
| | 9 「加茂郷土誌（9）」 |



100 牛転坂の石塔群

- 2 石塔
 - 3 下高柳字山王原38-1
 - 4 山麓。山林。
 - 6 「四生供養塔」嘉慶十二年四月一日 62.5
×42 「光明真圓口」 56×50
 - 「庚申塔」嘉慶十二年正月十一日 55×48
 - 「庚申塔」天保十一年正月九日 84×60
- (単位cm)
- 7 江戸時代(寛政11年～)
 - 8 「加茂郷土誌(9)」
 - 10 それぞれ当地へ寄せ集められたもので、かつては橋のたもと、牛転坂の頂上、岩清水場等にあった。



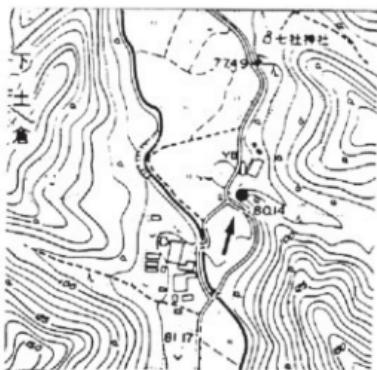
101 太古原の石塔群

- 2 石塔
- 3 宮寄上字三場41
- 4 国道脇
- 6 「馬頭觀音塔」44×26.5「垂
寒倉供養塔」開基二十九年
九月吉日落成
高野山 98×54
「垂寒倉供養塔」開基二十九年
九月吉日落成
高野山
- 143×36 「垂庚申塔」庚申年
九月吉日落成
高野山
- 78×57 「垂觀音塔」開基光緒
九月吉日落成
高野山
- 61×40 「寒念佛塔」開基光緒
九月吉日落成
高野山
- 願主（略） 82×42「垂觀
念佛供養塔」大正二十九年
九月吉日落成
高野山 地
主（略） 130×52 （単位cm）
- 7 江戸時代～現代（万延元年～
昭和3年）
- 10 昭和61年国道改良工事のた
め移転した。



102 乃木神社の祠

- | | |
|----------------|---|
| 2 石祠 | 6 大岩石の一部分を抉って祠に
したもの (190×140 cm、祠
24cm) |
| 3 下土倉字灰場197 | |
| 4 山麓、尾根の先端。山林。 | 7 近代のものか? |



103 寺屋敷の石塔群

- | | |
|---------------|-------------------------------------|
| 2 石塔、石仏 | 6 「辛亥申塔 十月廿四日」 「暮青
面金剛」 その他地蔵菩薩6 |
| 3 長谷 | 7 江戸時代～ |
| 4 宅地、ふ化場。寺院址。 | 10 配列中の中央のものは台座の
みが残る。 |



104 沢通の石塔群

- 2 石塔
- 3 下黒水字沢通986-1
- 4 道路脇。山林。
- 6 「寒念佛塔」（大日如來）」「寒倉供観塔」「光明塔」「三界萬靈塔」（大日如來）」「背面金剛尊塔」（大日如來）
- 7 江戸時代（享保年間～）



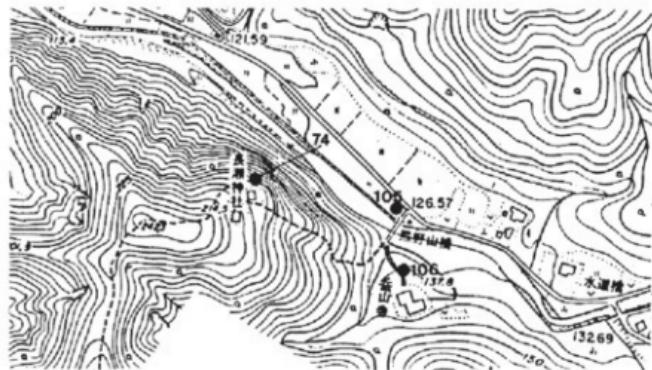
105 嶽山寺の石造物

- 2 板碑、石塔
- 3 宮寄上字長瀬1553
- 4 嶽山寺境内地
- 6 「宮寄者て有病」（大日如來真言）高さ 120cm 「龕二十三夜塔」 宝篋印塔2（天保3年銘） 五輪塔残欠 地蔵菩薩
- 7 江戸時代
- 10 宝篋印塔の内1基は記銘のものより古式のものである。位置図は次ページ参照。



106 嵐山寺の庚申塔（石塔群）

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 2 石塔 | 「寒念佛供養塔」 |
| 3 宮霧上字長瀬1169-2 | 「□祖大・・・」 |
| 4 県道脇。境内地。 | 7 江戸時代～現代（文政元年～昭和4年） |
| 6 笠塔婆形供養塔（不明）「暮光明真言供養塔」
「青面金剛塔」「金寒念佛供養塔」「寒念佛供養塔」 | 10 笠塔婆形供養塔は碑面摩耗のため文字不明。その他の塔は碌石塔である。 |



107 普興寺の石塔群

- 2 石塔、石仏

3 下高柳字筆洞632

4 善興寺境内地

6 「湯殿山」 「善興申塔
光明真言供養
十月一日」 「光明真言供養

塔 大悲塔
光明真言供養
九月一日 地藏菩薩坐像1

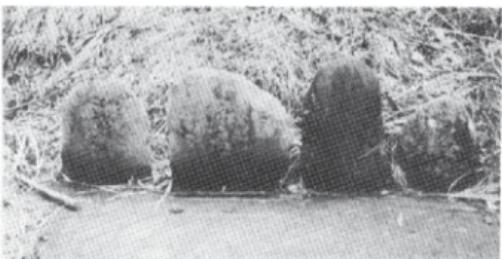
7 江戸時代(宝暦9年～)

9 「加茂郷土誌(9)」



108 西山の庚申塔

- 2 石塔
 - 3 西山字宮ノ前651-5
 - 4 国道駕
 - 6 「元和五年十月庚申塔」
「念佛之師□小野基 明治二十九年」 「寒倉大権現 大正九年十二月廿四日」
「明治十五年七月龜藏供養塔」
 - 7 江戸時代～昭和（安政5年～昭和5年）
 - 10 国道改良工事により現在地に移転したもの。



109 賢聖寺門前の石塔群

- 2 石塔
- 3 黒水字丸山679-1
- 4 集落内の道路脇
- 5 「光明塔」「光明塔」「□女人供養□」「寒倉供養塔」
「寒倉供養塔」
「寒倉供養塔」
- 6 「寒倉供養塔」
「寒倉供養塔」
- 7 江戸時代～明治時代



110 賢聖寺の石造物

- 2 石塔、石仏
- 3 黒水字丸山686
- 4 賢聖寺境内地
- 5 「庚申塔」「寅卯辰巳塔」
「寅卯辰巳塔」
- 6 「庚申塔」「寅卯辰巳塔」
「寅卯辰巳塔」
- 7 江戸時代～
- 10 地蔵は現代のものか？



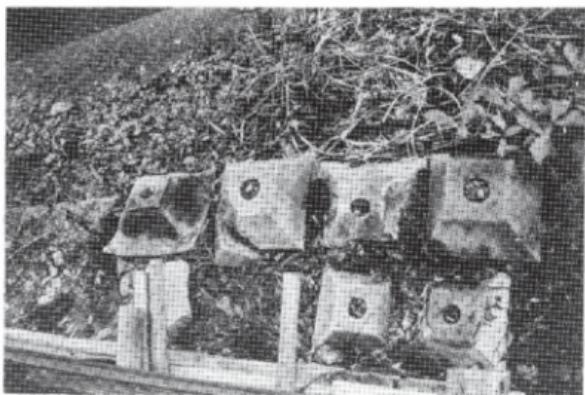
111 谷泉寺の石塔群

- 2 石塔
- 3 下土倉字中田778
- 4 谷泉寺境内地
- 6 石塔 7基（内容不明だが文化年間のもの1基あり） そのほか地蔵菩薩
- 7 江戸時代
- 10 境内4ヶ所に点在する。



112 粟ヶ岳神社の石塔残欠

- 2 石塔、石祠
- 3 宮寄上字長瀬1089
- 4 宅地
- 6 石塔笠6、石祠（金毘羅大権現）
- 7 江戸時代～
- 8 相田栄二氏所有、管理。
- 10 粟ヶ岳山頂より移転した社といわれている。



113 日限地蔵尊

- 2 石仏
- 3 宮寄上字小乙581-1、511-9
- 4 集落内三叉路脇
- 6 地蔵菩薩坐像1、堂宇内に安置。対岸路肩に地蔵菩薩立像1、小規模ながら塚状を呈している。
- 7 江戸時代～
- 10 日を限ってお参りをすると立願成就すると伝えられる。



114 七型の石塔群

- 2 石塔、石仏
- 3 下高柳字七聖772-1
- 4 県道脇、路肩。
- 5 「奉納大乗口 ■■（欠損）」
- 6 「庚申塔 ■■■」 地蔵菩薩立像 1
- 7 江戸時代（寛政年間～）
- 8 「加茂郷土誌（9）」



115 丸山の庚申塔

- 2 石碑
- 3 黒水字丸山
- 4 河岸段丘上。明治初期までの旧道脇。
- 6 自然石「青面金剛 ■■■」
願主敬白」 土壇の上に建立。
- 7 江戸時代（明和元年）
- 10 位置図は次ページ参照。



116 茂野家の山の神祠

- 2 石祠
- 3 黒水字岩野439
- 4 葉師山南西の山麓台地端部。
- 現況は山林だがかつては畠地 7 江戸時代（享和三年）
- 6 凝灰岩製の石祠（高さ80cm）
「享和三 ■■ 年二月十二日
願主茂野傳内」（祠銘）
- 10 数年前まで磨製石斧が祀られていたという。位置図は次ページ参照。



117 トリアゲ地蔵

- 2 石仏
- 3 下大谷字出戸（通称トリアゲ）
- 4 加茂川左岸、岸壁の岩屋。旧道脇。
- 6 地蔵菩薩坐像「願主下大谷村坂上久三良 □母妙全 西湖市十良 □時 母 嘉永元年 九月日」（台座銘）
- 7 江戸時代（嘉永元年）
- 10 旧道はこの辺りで加茂川を渡渉した。



118 丸山の塚

- 2 塚、石仏
- 3 黒水字丸山974-甲
- 4 河岸段丘、山陵端部。七谷忠魂碑遺跡の背後、明治初年以前の旧道添い。
- 5 直径 5m、高さ 1.4mの円形プランで、一部分に礎を見る。
- 6 塚上に石造地蔵菩薩建立。
- 7 江戸時代～
- 10 写真下



119 ナメ坂の塚

- 2 石塔群
- 3 下高柳字ナメ坂口833
- 4 加茂川左岸、山麓台地。山林。
- 5 宝篋印塔残欠、相輪7、笠部
- 2 他
- 7 中世
- 9 「加茂郷土誌(10)」
- 10 昭和57年頃土取りにより塚の
覆土が埋滅した。



120 中大谷の石祠

- 2 石祠
- 3 中大谷
- 4 集落内の道路脇
- 6 石祠、相輪残欠 2
- 7 中世～江戸
- 10 地元ではキンカ様と呼んでいる。



121 旧街道、花立峠

- 2 史跡
- 3 西山字谷地田はか
- 4 尾根、山嶺。
- 5 地形によって様々だが、上幅
10m、底幅 4m の山中の道路
が 400m 程続く。山頂は花立
峠、松、イタヤの大木があり
社として祀事の地であった。
- 10 各所にのこる旧街道以前の古
い道路らしい。



122 十二神社の石塔群

- 2 石塔
- 3 上土倉 十二神社入口
- 4 十二神社境内地
- 6 「寒念佛供養塔」
〔文政十五年
庚申塔〕
- 7 江戸時代



123 岳の道祖神

- 2 石像
- 3 宮寄上宇岩野
- 6 双体道祖神。舟形後背を有する半肉彫像 59×41cm
- 9 「ふるさと歴史散歩」
- 10 地元ではキンカ様の愛称で呼ばれている。



124 旧宝生院の石塔

- 2 石塔
- 3 宮寄上字小乙
- 4 宅地
- 6 「南無□天保三年一月吉日」
「光明真言□」
- 7 江戸時代（天保三年）
- 10 宝生院は寺院址らしい。



125 宝生院址

- 2 寺院址
- 3 宮寄上字小乙（諏訪神社前）
- 10 №7 5の宝篋印塔もこの関連
か？ 位置図は 124参照。

126 本都寺の石塔群

- 2 石塔
- 3 上高柳
- 4 寺院境内地
- 6 「奉納大乘妙典供養塔 三月十六
日正子年 」 「馬頭觀音」
「光明真言供養塔 元和丙日」
「青面金剛塔」「青面金剛塔
口月十二日」「無縁供養塔」「庚
申塔 八月大吉日」
- 7 江戸時代（文政11年）



127 二左衛門山墓址群

未確認だが通称二左衛門山（ニイゼン山）一帯に、中世末期の石塔が散在しているのを古くから地元民によって発見されている。中世墓址群と思う。



128 上道の石塔群

宮寄上字岩野地内旧墓地に供養塔
4基あり。積雪のため内容未確認。



129 朴坂の庚申塔

上土倉から中大谷へ通じる林道に
庚申塔1基（71×45×25cm）との
報告あり。加茂郷土誌(2) 参照。

130 六部塚

中大谷諏訪神社付近に六部塚と呼
ばれる塚あり。六部が生き埋めに
なったと言い伝えられる。

131 その他の遺物

須恵器系中世陶器甕1〈中世陶質
土器〉 出土地は下高柳の善興寺
付近というが、地点は不明である。
現在加茂市民俗資料館所蔵。14世
紀。

IV 小 結

(1)はじめに

本調査は表題のごとく、国営加茂東部地区総合農地開発事業に伴う予定地域周辺においての新遺跡の発見を主目的とし、併せて既存の遺跡台帳の補訂を試みたものである。昭和54年度新潟県教育委員会がまとめた新潟県遺跡地図によれば、市内の遺跡数は38箇所が数えられている。この内当開発予定地域内に所在するものは50%に当たる19遺跡があり、このことは加茂川の上流地帯であり且つ豊かな丘陵、山岳地帯という地の利の所以と考えられていた。しかるに当分布調査の結果、その数値は第1表のごとく、その総数は近世石造物を加え 129 箇所にのぼる。

時代・種別	先土器	縄文	弥生	古代	中世	古跡	摩	生産	石造物（中世）	石造物（近世）	その他	計
既存の 遺跡	加茂市全域	0	13	0	4	2	8	9	2	0	—	0 38
	うち七谷地区	0	10	0	0	2	4	5	2	0	—	0 23
当調査により確認	1	27	0	0	6	15	8	5	11 (23)	52 (181)	1	129

[註] ①石造物の()内の数字は遺物の数量 ②由23箇所のうち開発地域内は19箇所 ③遺跡・石造物等に重複するものあり

第1表 遺跡比較表

以下それぞれの時代あるいは種別についての概略を記してまとめに換えたい。

(2)先史時代の遺跡

唯一の旧石器の出土を見た山王原遺跡は、加茂川流域における最古の遺跡である。採集遺物が一点であることから、この加茂川右岸の台地がいますぐ旧石器（先土器）時代の遺跡ときめつけすることはできないが、少なくとも当時の人々がこの地に活躍したことには違いない。今後より密度ある踏査や確認調査を期待したいところである。縄文時代の遺跡は加茂川の河岸段丘である岩野台地をはじめ広田、三場、岩野原の台地上に集中して位置し、その他山麓や丘状台地に点在している。これまで発掘調査の行われた遺跡は七谷忠魂碑遺跡のみで、その他立会い調査が行われた水源池遺跡がある。前者は祭祀遺跡という特異性のためか土器の採集は非常に少なく、多くを語れない。過去の記録をもかりて言えば、これらのうち縄文前期の土器を見るものは下土倉遺跡が唯一で、水源池遺跡をはじめ岩野原A、牛ヶ沢遺跡等々中期のものが多い。これらも概ね中期前半に位置づけられよう。縄文後期の遺跡は中期の遺跡と重複するものと、単独のものとがあるが、大方が後期初頭の土器を見るにすぎない。そのうち岩野原C遺跡が後期から晩期の土器を含んでいた。なお三場A刈干場遺跡採集の躑躅石斧は往々にして縄文時代早期の所産に見られるものであるが、ここではなおも今後の課題としたい。

弥生時代の遺跡は発見することが出来なかつたし、また市内平野部においても同様である

（3）歴史時代の遺跡

加茂市内における古墳時代の遺跡として平野部における千刈、石川遺跡がありその一部の土器（土師器）は市の文化財に指定されている。また近年下条地区における福島古墳群の発見も加茂の古代史にとって画期的な進展要素となろうが、当調査地域におけるこの時代の遺跡、遺物共発見されなかった。さらに古代即ち奈良、平安時代に比定される遺跡及び遺物も同様であった。

塚や城館址を除いて中世の遺跡は8箇所を数えたが、これらは寺院址と遺物の単独出土地が主体である。寺院址のうち賢聖寺跡は山頂に近い俗世から離れた位置にあり、また出土した一括資料としての密教法具（鍍金具）の中には平安時代を傳わせるものも認められ、第一級の資料といえよう。さらに遺跡としてその地点を確認出来なかったものの、加茂市民俗資料館蔵の中世須恵器甕も高柳地区の中世を語る貴重な遺品である。

（4）塚

これまで七型の塚5基が報告されていたが、当調査においてはこれらの所在地の修正を合わせて行い、17基の発見となった。塚の時代推定是不可能であるが、遺構の大きさ・形態及びその立地等によって大まかな推測は出来よう。また塚頂に建立された石造物等は必ずしも塚の造営当初のものとは推定出来ないまでも、その石造物の建立時代を降ることはあり得ない。塚の立地は台地端部や尾根の陵線上にあるもの、古い街道沿いのもの、集落内または田畠周辺にあるもの等に分類される。これらの立地と形態等から比較的古い時代の經塚をはじめ、あるものは古墳、墳墓等の性格をもつものもある。塚にはこれらのほか里程碑等があるが、塚の多くが“祭祀にかかわるもの”であること以外にその性格を把握することが難しいのが現状である。

（5）城館址

やや問題の提起にすぎないものもあるが14箇所の数にのぼった。この他口碑では“下屋敷館址”や“下殿屋敷”等がある。館址はすべて山城であり周知の薬師山城址以外はすべて踏査した。これまで県内における山城は累々たる遺構を遺すのみが取り上げられて来たが、ここでは西ヶ峯城址をはじめ同岩城等、ごく単純な遺構のものも当然山城の一角に加えねばならないものであるし、出戸望櫓、木戸口望櫓、西ヶ峯望櫓等は腹離のものよりいわゆる“むらようがい”的要素が考えられるものであり、この部類とした。この村要害に関してはさらに今後の課題としたい。陣場跡は現在のところ伝承の範疇を脱し得ないが、位置的にみても何らかの形で実際に使われた場所であると思われる。

（6）中世の石造物

市内における中世石造物は、これまで西光寺裏山の墓地にある中世末期の一連の遺物を見るに過ぎなかつたが、当調査でわずかながら発見することが出来た。それらは石仏、板碑、宝篋印塔残欠品であるが、時代的に二分することができる。下高柳曹洞宗善興寺の石仏はこの地方に唯一のものであり、その時期も一店14世紀後半（南北朝）としたが、もちろん14世

紀前半の可能性もある。またこの石仏は形態上全国的に見られるものではあるが、その石材、手法等から後世における搬入品であることも考えられよう。同寺の板碑、上の田板碑Aの2基は同じく14世紀後半のものとしたが、比較出来る県内資料が乏しいために一般論であり、地域的特色を把握出来る時点になれば、おそらく鎌倉期まで遡り得る可能性も出てくるものである。その他の板碑に関しても2期に分離することができ、碑面に彫り込みのあるものは室町中期が考えられ、その他のものは一応室町前期以前のものと推定されよう。宝鏡印塔も同様であり、その形態から3分され、広田の塚頂にある古式のものは14世紀後半、同所に点在するものはやや時期を下げ、さらに小乙の塔を始めとする大方のものは室町中期から江戸時代初頭の所産と考えられるものであろう。

(7) 近世の石塔、石仏

近世の石造物に関してごく特異なものの他は新潟県教育委員会の遺跡調査対象となっていないようである。ここでは遺跡というよりも路傍の文化財ということとし、これらも対象とした。しかしながら明らかに墓標と考えられるものはこれを除外した。これらに関しては寺院境内や個人の管理に帰するものの把握が難しく、網羅出来たとは考えていないが、一応49箇所 178基を記録した。内容的には庚申塔、寒念寺塔、光明真言塔の石塔と石仏として地蔵、観音、不動、道祖神、及び石祠等である。石塔は文字塔が主体で、唯一の背面金剛像が岩野原に所在した。また宮寄上の双体道祖神も貴重な存在といえよう。いまこれら近世の石塔群に見られる最古の紀年銘は沢通りの“三界萬靈塔”的享保年間のものであり、新しいものは近世塔に併立した昭和5年の同一人の祈願による塔が4箇所に見られた。いずれにせよこの地域における民間信仰の盛大さが目の迫りに出来よう。

(8) その他

時代区分として不明ながらも中世とした遺跡の中に石五郎屋敷遺跡、御所平遺跡等の製鉄遺跡4箇所がある。越後における製鉄遺跡はしばしば奈良、平安時代の窯業遺跡と重複して発見されることがあるが、中世末期における戦国時代のものより密度の高い状態であらねばならない。製鉄関連遺跡としては、1次的産業である製鉄、2次的な精錬、3次的な加工業がある。既存の遺跡であるなかん沢製鉄遺跡は3次的と考えられ、その中でも鍋物場跡との報告がある。他の遺跡に関しては時代もさることながら、考古学的発掘調査や化・科学的調査を期さねば云々出来ないところである。

生産遺跡としては他に小乙鉱山址がある。江戸時代中期の開鉱であり佐渡金山における金の精錬用として重要な役割を果たした遺跡である。

史跡として取扱ったものに旧街道がある。本書に記載したものはこの1点であるが実はこの地域に幾筋かの旧街道が知られている。西の下田村からいくつもの峠越えをして北方の村松方面へ抜けるルートである。これらは崖を切り通し、山腹を抉って開拓した大工事の痕を残している。あるものは松坂街道、あるものは嚴様街道と呼び伝えられてきたもので、せめてこれらを記録にとどめねばなるまい。

(9) おわりに

当開発事業は、田畠の土地改良面積 329ha、山地における農地開発面積 715haに及び標高差150mである。私達の調査は2ヶ年に及ぶものとはいえ日程的にはごく限られた時間であり、この結果をもってすべてとはいえないことを率直に認めるものである。特に山地における遺跡の発見は今後の開発事業と相対して行われることであろうし、水田地下におけるものも同様のことであろう。いま例言にも記した如く、開発区域の法線を現地において把握しかねることからより広い範囲を踏査の対象としたつもりだ。また開発予定地域外の未踏査範囲も広大である。

第2表は遺跡と開発区域との関係を○×で示した。これをもって報告とするが、遺跡確認調査の結果を期すものである。

原 始	16 ×	31 ×	46 ×	61 ○	75 ○	91 ×	107 ×	123 ×
1 ○	17 ○	32 ×	47 ×	62 ○	76 ○	92 ○	108 ×	124 ×
2 ×	18 ○	33 ×	48 ○	63 ○	77 ×	93 △	109 ×	125 △
3 ○	19 △	34 △	49 ×	64 ○	78 ×	94 ×	110 ×	126 ×
4 ○	20 ×	35 ×	50 ○	65 △	79 ○	95 ○	111 ×	127 ○
5 ○	21 ○	36 ×		塚	66 △	80 ○	96 ○	112 ×
6 ×	22 ○		城 鎮	51 ○	中世石造物	81 ×	97 ×	113 ○
7 ○	23 △	37 ×		52 ○	67 ○	82 ×	98 ×	114 ○
8 △	24 ○	38 ×		53 ○	68 ○	83 ○	99 ×	115 ×
9 ○	25 ○	39 ×		54 ×	69 ○	84 ×	100 △	116 ×
10 ○	26 ×	40 ×		55 ×	70 ○	85 ×	101 ○	117 ×
11 ×	27 ○	41 ×		56 ×	71 ×	86 ×	102 △	118 ×
12 ○	28 △	42 ×		57 ×		87 ×	103 ×	119 ×
13 ○		中 世		43 △	58 ×	72 ×	88 ×	104 ×
14 △				44 ×	59 ×	73 ×	89 ×	105 ×
15 △		30 ○		45 ○	60 ×	74 ×	90 ×	106 △
								数字は遺跡番号

第 2 表

七谷の名は地質学上における七谷層として世界的に知られている名称であり、部外者である私達にあっても古くからなじみの多い地名であった。そしてこの地域が歴史的にも天然の環境からもかくも恵まれた豊かな地であり、計らずも私達にこの地域の調査という榮譽が与えられたことをこの上なき喜びとするものである。当調査に当たり調査員、補助員をはじめ事務局と地元の多くの皆様方にお礼申し上げるものである。また、特にこれまで自力で山城を含むあらゆる遺物・遺跡の調査を行ってこられた波塚十一氏の業績を記して称えるものである。

参考文献

- 「加茂市史（上・下）」 加茂市 昭和50年
- 「加茂市の文化財」 加茂市教育委員会 昭和55年
- 「加茂郷土誌
(2, 3, 4, 7, 9, 10号)」 加茂郷土誌調査研究会 昭和55～60年
- 「ふるさと歴史散歩」 加茂市教育委員会 昭和61年
- 「加茂市歴史年表」 加茂市 昭和60年
- 「新潟県道路地図」 新潟県教育委員会 昭和54年
- 「七谷忠魂碑遺跡」 加茂市教育委員会 昭和60年
- 「加茂東部調査資料
(1, 2, 3)」 北陸農政局 昭和55～57年

1987年3月 発行

東部地区遺跡詳細分布調査報告書

編 集 東部地区遺跡詳細分布調査団

代表者 川上 貞雄

発 行 加茂市教育委員会

新潟県加茂市板坂1番3号

TEL 0256-52-0080

印 刷 所 株式会社サンプリント

新潟県加茂市柳町1-4-3

TEL 0256-53-0261

ワープロ 加茂市教育委員会
